

流域の人々と歩む月刊誌

くまがわ春秋

2019
6
第39号

球磨川の恵み・アユ釣り



「球磨川のアユ漁始まる」(人吉市矢黒町付近) © 松本 学

火の国、水の国、
焼酎の国。

球磨焼酎

織月



前田(三ツ矢) 宇梶剛士



世界的な品評会で
金賞を受賞いたしました。
Los Angeles
Wine & Spirits
Competition 2019

飲酒は20歳未満までから、飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を及ぼすおそれがあります。

織月酒造株式会社
http://www.sengetsu.co.jp/
〒988-0082 熊本県人吉市新町1番地

※5月26日に開催された「織月まつり」には、たくさんのご来場ありがとうございました。

雑誌 81779-06-9



4910817790697
00500

月刊 くまがわ春秋 第39号 2019年6月15日発行
企画：人吉球磨総合研究会 発行：人吉中央出版社
〒868-0015 熊本県人吉市下城本町1436-4の3号
http://www.hiroyoshi.co.jp/ info@hiroyoshi.co.jp
TEL 0966-23-3759 / FAX 0966-23-3759

定価 540円 本体 500円

最近のおもな出来事

- 5月18日(土)
 - ▽人吉鉄道ミュージアム開館4周年記念イベント(〜19日・25〜26日、MOZOCAステーション8000)
- 5月19日(日)
 - ▽第2回「人吉球磨の偉人探訪」(人吉市 老神社会館)
- 5月26日(日)
 - ▽第33回「織月まつり」(人吉市新町 織月酒造工場敷地内)
- 5月30日(木)
 - ▽ひとよしくまごども劇場例会『みてても、いい?』(山江村農村環境改善センター)
- 6月1日(土)
 - ▽球磨川水系「アユ漁解禁」
- ▽平成31年度「不知火海・球磨川流域圏学会」研究発表会(八代市坂本コミュニティセンター)
- 6月4日(火)
 - ▽ひとよしくま市民劇場例会・劇団民藝「夏・南方のローマンス」(人吉市カルチャーパレス)
- 6月9日(日)
 - ▽国宝指定11周年記念「国宝記念まつり」(青井阿蘇神社境内)
- 6月15日(土)
 - ▽第31回ひとよし映画祭「万引き家族」(人吉市カルチャーパレス)
 - ▽16日(あさぎり町須恵文化ホール)

6月(第39号) 目次

- 青井阿蘇神社で「国宝記念まつり」…3
- 柳人があじわう漱石俳句³⁹ いわさき楊子…5
- くまがわの神さん仏さん³⁴「山江村」宮原信晃…10
- 記憶の落ち穂³⁸「初めての母の里」坂本福治…13
- 建築みてある記³⁴ 森山 学…18
- おっとわつとあすび²⁹ 松舟博満…23
- 上杉芳野³⁶「京都熊本県人会」…24
- 人生―100年時代(1) 久馬 凌…26
- ひろし「げっかん・ぎひょう」…29
- 山に行こうよ!¹⁸「仰烏帽子山」…30
- 坂本の製紙工場小史⁴ 上村雄一…31
- 鶺鴒短歌会 五月詠草…37

特集・球磨川の恵み

- 不知火海・球磨川流域圏学会の研究発表会…4
- 「荒瀬ダム撤去で
- 球磨川のアユは増加するか?」つる詳子…6
- 「球磨川に学びつつづける人びと」森明香…14

今月の一言

『文読む月日』

(レフ・トルストイ 編著 北御門二郎 訳) より

強い人、智慧のある人に力や智慧が与えられているのは、弱者を迫害するためでなく、彼らを助け、彼らを守るためである。

表紙写真

「球磨川のアユ漁始まる」(人吉市矢黒町付近で)

6月1日にアユ漁が解禁になった球磨川水系では初日から太公望の姿が見られた。毎年、川辺川でのアユ釣りを楽しみにしているという宮崎市の吉田 同さん(67)も



その一人で、5月31日の夜から人吉に前泊して翌日、釣り糸を垂れた。(球磨川のアユに関する記事は6頁参照)。

撮影/松本学(編集部)

人吉藩の借金及び経費節減計画¹ 尾方保之…38

外来語から学ぶ英単語³⁹ 藤原 宏…46

奥球磨、湯前町の偉人⁶ 村木正則…47

くまがわ狂句 村上鬼拳…49

漢和字典は面白い²² 鶴上寛治…50

砂時計 ―思い出るままに⁸ 小野武己…50

仏教を救った僧侶「黙雷」⁵ 富永和信…54

お休みどころ通信⁷ 興野康也…57

倉敷便り³⁰「吉備の国」原田 正史…58

小説・相良清兵衛¹⁸ 山口啓二…60

Facebook 華文俳句社⁶ 永田満徳…65

字図で見る球磨の地名²⁹ 上村重次…66

「何でも引き受け株式会社」武井京子…69

方言を味わう³⁴「稲留三郎の世界」前田一洋…70

「人吉城地下室遺構の真実!」益田啓三…74

前号「くまがわ学習塾²⁹の答え」…77

いもご短歌会…78

くまがわ学習塾³⁰…79



本誌の
取扱店舗

■清藤書店 ■ブックスミスミ ■明屋書店 (錦店・免田店・多良木駅前)
■道の駅さかもと ■TSUTAYA 八代松江店

国宝指定 11 周年記念



境内で開催された「国宝記念まつり」

の名所を巡るシャトルバスも運行され、前夜祭では「国宝のピアガデン」が開かれ、バンド演奏などのステージイベントなどもあった。

人吉市の青井阿蘇神社の国宝指定11周年を記念したイベント「国宝記念祭り2019」が6月9日に開催され、観光客らが続々と訪れる中、国宝指定のこの日に結婚式を挙げたカップルの門出を祝うなど、多くの人で賑わった。主催は青井の杜外苑街づくり協会で、

昨年にかけて2回目の開催。同神社境内には食の出店が並び、歌や踊り、様々な体験会や撮影会などが催された。参集殿では小原流こども教室の「生け花体験」や裏千家掛井宗周社中による「茶道体験」もあった。また前日の8日には、あじさい

青井阿蘇神社で「国宝記念まつり」

巻頭言

恋の季節

平成15年（2003年）8月14日、北アメリカで大停電が発生した。ほとんどの交通機関が麻痺し、ニューヨーク・デトロイト・トロント・オタワなどの大都市では自動車道路が歩道になり、公園などで一夜を過ごす人がたくさん出た。仕事もできず、テレビ・パソコンもできない暗い夜になった。停電の原因はいまでも解明されていないが、その夜に、各都市で出生率が上昇したといわれている。下品なジョークにみえるが、意味不明というわけではない。なにもしることがないとき、若い男と女が会話を交わし、情愛に結びついてもおかしくはない。停電時には、男女の交流だけでなく、同性の会話も弾んだであろう。こういうとき、経済的損失を持ち出すのはつまらない。停電で生産力が低下しても、それを上まわる価値が生まれると考えようではないか。

停電は恋の時間である。一年を通してみれば、6月が恋の季節だろう。だてに「ジューン・ブライド」という言葉があるのではない。特に夏至はそうだ。西洋諸国の一部には、夏至を恋愛の時期とする伝統が残っている。日本でも恋の気分が高まり、彦星が仕事をしないので、天帝は彦星と織姫の逢瀬を認めず、七夕の夜だけ、その禁を解くことにした。

6月は雨の季節である。そのためか、スマホなどでゲームに向かい時間を潰す輩がこの時期になると繁殖する。ゲームやビデオで目を痛めるより、恋の病に身を焦がすほうがいい。6月は土砂災害警戒月間でもある。災害にそなえつつ、彦星と織姫のように離れ離れになったときに思いをめぐらし、七夕のありがたみをかみしめよう。その七夕の短冊に「宝くじが当たりますように」といった拝金の願いを書くのは野暮。せつかくの機会が台無しになる。短冊には恋の願いを書こう。すでに恋に落ちているなら、恋人、その家族の健康を祈念しようではないか。そういえば大停電は盂蘭盆に発生した。おそらく、それは偶然ではあるまい。七夕とお盆とは、むかしは、切り離せない関係にあった。それって、日本固有の話ではないかとの批判は甘んじて受ける。デカルト的世界観では、恋の季節を語れない。（春秋）



書家・佐近渓雪さんの書道パフォーマンス



賑やかなエイサーの踊り

坂本町で研究発表会

不知火海・球磨川流域圏学会

6月1日、「不知火海・球磨川流域圏学会」の平成31年度の研究発表会が八代市の坂本コミュニティセ



約80名の参加があった研究発表会（6月1日）

ンターで開催された。

熊本高等専門学校建築社会デザイン工学科教授の森山さんの基調講演「魅力いっぱい 坂本の建築物」では、本誌でも掲載された「藤本五所神社」や「古田阿蘇神社」、「鶴之湯旅館」などの歴史や構造をスライドを使って紹介した。

研究発表では、磯田節子さんの「紙漉きの里を守る―宮地和紙と周辺景観の保存」、つる祥子さんの「荒瀬ダム撤去後の球磨川と河口干潟の変化」、坂本桃子さんの「食べて祀って―流域に残る祭りとそのお供え物の意味」、稲葉洋一さんの「さかも



熊本県立大生による環境に関するポスター発表

と八竜天文台の立地条件」、山本隆英さんの「隠れ念仏と坂本」、本誌編集主幹の上村雄一が「製紙工場―熊本の近代化」などを発表した。ほかに熊本県立大学環境共生学部部の学生によるポスター発表もあった。

意外な季語

羽二重の足袋めしますや嫁が君

(漱石28歳)

まだ熊本に来るまえの俳句初心者ころの句。漱石は誰かの奥さんの履いている足袋のことを詠んだらしい。ところが「嫁が君」とは正月三日の間の「鼠ねずみ」のことをさす忌み言葉。間違いを子規から指摘されている。忌み言葉とは、すり鉢をあたり鉢あたりのといったり、冠婚葬祭などで避ける言葉がそれにあたる。

三回はきっちり食べて喪に服す

渡らんとして谷に橋なし閑古鳥

(漱石30歳)

閑寂なさまを閑古鳥が鳴くというが、この句にある閑古鳥はカッコウという鳥のこと。夏の季語。閑かな谷間に響くカッコウの鳴き声が聞こえ

てきそうだ。

君が名や硯に書いては洗ひ消す

(漱石29歳)

硯すずり洗は秋の季語。七夕の朝、硯を洗い、芋の葉の露を集めて墨をすり、笹に吊す短冊に書くこと字がじょうずになるという故事がある。七夕も秋の季語。

空にしか書けない文字がある 好きだ！

太箸を抛げて笠着る別れ哉

(漱石29歳)

太箸ふとばしは新年の季語。おめでたい新年に箸が折れないように丸く太く作った雑煮箸のこと。著者の祖父は大晦日に栗の木を削って真っ白な太箸を作っていた。太いところは直径一センチもあった。

お雑煮をネット検索する娘

【いわさき楊子／川柳と俳句の愛好家、熊本市在住】

柳人があじわう漱石俳句

— 39 —

いわさき楊子



荒瀬ダム撤去で球磨川のアユは増加するか？

自然観察指導員熊本県連絡会会長 つる 祥子



荒瀬ダム撤去で蘇った小又瀬（荒瀬ダムの直上流）

6月といえば、釣り人ならずとも球磨川流域に住むものなら、誰もが気になるアユ漁の解禁の月である。特に最近では、荒瀬ダム撤去で増えているのではないかとという期待感もあつて気になるところである。そこで、近年のアユの放流量から荒瀬ダム撤去の関係が見えないか探ってみた。

図①は、荒瀬ダム撤去で蘇った瀬を示した地図である。減水区間であった荒瀬ダム下流の2つの瀬を含め、水位が下がったダム湖に出現

した瀬9カ所と、瀬戸石ダムの下流に見え隠れしていた御前岩を含め、12の瀬が示してある。この他小原瀬、ギヤの瀬というのもあつたようだが、場所不明である。

これだけの瀬が増えれば、河川形態は多様性を増し、当然アユをはじめとする魚類の産卵場、生息場も増える。実際、友釣りをする人、刺し網をする人など釣り人の数は間違いなく増えている。これは間違いない。荒瀬ダム撤去の効果だと言える。

2018年4月3日の西日本新



図① 荒瀬ダム撤去で出現した瀬

聞には、「アユのすくい上げ量、5年ぶり100万匹超『ダム撤去で生息環境が好転』の見出しが躍り、『荒瀬ダム撤去でアユの生息環境が良くなっている。来年以降も期待できるのではないかと』と球磨川漁協のコメントを紹介している。2018年のアユの放流量は、海からの自然遡上（河口産）208万4248尾（総放流量303万6563尾）と5年ぶりの好調であった。

翌年の今シーズンも好調かなと思つたら、去年よりかなり少ない。荒瀬ダム撤去でアユの遡上量は好転しているのか、水利権が失効してゲートが全開された2010年からの子鮎の放流量を調べてみた（図②）。2010年の翌年から3年間は増加傾向にあったが、水位低下

が始まった2013年翌年にはガタンと落ち込み2016年、みお筋が復活し昔の流れが戻つた翌年から2年間は再び上昇傾向である。



図② 荒瀬ダム撤去のためのゲート全開から今年までのアユの放流量の変化

それが、2018年の「5年ぶり」好調の記事である。

荒瀬ダム撤去工事の進捗状況とアユの増減を云々するにはデータ不足であるが、川を見てきた者の現場感覚とは一致することも多い。ゲート全開やみお筋復活は、アユの生息環境に良い効果をもたらし、水位低下維持装置による水位低下は、大量の土砂を下流に流すために産卵場の環境にマイナスだったのではとも考えるが、これはデータ不足で推測に過ぎない。

しかし、好調だった今年の放流量が低下したというのは、現場感覚からズレてはいない。ずっと河原の礫の状態を見ているが、河原の一番よい状態は2017年、2018年で現在は悪くなりつつあるというの

が私の結論である。

ダム撤去で昔の河原に戻ったという話を幾度となく聞くが、それは川の運搬作用により上流から小砂利が流れてくることで形成されたものではなく、ダム湖だった60年間の間に堆積した土砂が流されて形成されたものにすぎないからだ。上流からの土砂は依然として瀬戸石ダムに阻まれている。従って、ダム湖に貯金されていた小砂利はほとんど流されていくけれど、上流からの供給はないので河原は、大きな礫だけが残った河原や泥が多い河原：要するにダムがある川のダム下流の河原や河床が変わっていくのは間違いない。アユが食む珪藻や緑藻が生育する大きな石は残るかもしれないが、産卵に適した小砂利の河床は

なくなっていくだろう。また、仮に遙拝堰の上流で仔魚が産まれたとしても、遙拝堰を下れないという状況もダム撤去前と変わっていない。

結局、翌年遡上する仔魚の数は、遙拝堰下流の産卵場まで下った親アユが産卵し、生まれた仔魚が翌年遡上してくるもので、荒瀬ダムがあつた時となら変わらないのである。荒瀬ダム撤去で漁場や産卵場が増えたとしても、翌年のアユの増加にはつなげるのは難しい。

現在遙拝堰の下流には、八の字形状の構造物が出来ている（写真左）。5月14日の西日本新聞は「江戸時代初めに肥後藩主の加藤清正が造り、昭和の河川事業で姿を消した「八の字堰」が、50年ぶりに

よみがえった。」と報じているが、これは堰ではなくあくまで八の字堰風

構造物に過ぎない。国交省のコンセプトに、①加藤清正由来の旧遙拝堰

（八の字堰）の形状を基本

とする。②アユの生息環境に

配慮する。③アユ以外の生

物にも配慮する、とあるが、

確かに見かけは旧八の字堰

に似て、今までよりは、よ

い環境を提供することだろ

う。しかし、そのすぐ上流

には、依然として生き物や

砂利の移動を妨げる遙拝堰

が構えている。遙拝堰があ

るために、よい産卵場であ

つた下流の土砂は流れ、産卵

場としても機能しなくなりつ

つあった。遙拝堰の影響を少

しでも軽減するためには効果があるかもしれない。しか

し、そこまで親アユが下れないことが問題なのである。同様に遡上できないことも変わらない。

せめて、アユの産卵期だけの短い期間でもいいので、瀬戸石ダムと遙拝堰のゲートを全開してほしいものである。瀬戸石ダムや遙拝堰の撤去が難しくとも、アユや他の生物が生息・繁殖しやすい環境を造るためにできることは沢山ある。八の字堰風構造物が親水性の向上を謳うなら、そこに集う人たちが川を見て川を考えるきっかけにしてほしいと思う。川で釣りをしたり、川と遊んだりする機会が増えても、川は再生しない。そういう意味では、荒瀬ダム撤去も球磨川の再生の第一歩に過ぎない。

【鶴・しょうこ／八代市】



遙拝堰の下にできた八の字堰風構造物

くまがわの神さん仏さん 34

— 山田と万江の阿弥陀堂 —

宮原信晃

令和の世になって初めての花祭り
(5月12日)の日に、本願寺人吉別
院の副輪番、山崎先生とご一緒に山

江村のお堂に出掛けた。
まずは山田の丸にある智山堂と
いう阿弥陀堂へ向かう。車の通る道

から石の階段を数段登ると、たくさ
んのお世話をする方々の笑顔が見え
た。
会釈をしながらお堂に入り阿弥陀
様に線香をあげ、それからナムシ草
の飾りのある花御堂の中の、小さな
お釈迦様に甘茶をお掛けして手を合
わせる。



翼の折れたエンジェル〜。山田丸智山堂の阿弥陀仏



智山堂でのおもてなしの「ごっつおー」

おもてなしにはあくまぎ、ナマス、

栗の甘煮、豆の煮物などがずらりと
並んでいた。

ご挨拶をしてお堂から出ると甘茶
を煎る昔からの釜があり、本日もち
の茶釜で煎って甘茶を作られたそう
であった。お堂の側のお地藏さんや
庚申塔などを見学して次へ向かった。

山田大王神社や近くの阿弥陀堂に

も足を延ばして見学させて頂いた。

山江村は山田という集落と、美し
い丸岡公園のある山を隔てて、向こ
う側に万江集落があり、それぞれに
文化財の宝庫である。ツツジでも有
名な丸岡公園を通って万江集落の西
福寺跡へ着いた。足や膝の悪い方に
は大変な石の急坂である。そこを、
よいしょ、よいしょとばかりに石段

を登った。

ここの阿弥陀様もなかなかのお顔
とお姿。そこで、山崎先生が正信
偈げというお経をあげてくださった。
阿弥陀様を讀えるお経で阿弥陀様
の頬が少し赤くなったようにも見え
た。

この西福寺跡のお世話をされてい
る元村議の松本佳久さんご夫婦や



西福寺跡へ石段を登る



地元の松本さん(右)と山崎先生

記憶の落ち穂

その ③⑧

絵と文／坂本福治



初めての母の里

昭和二十一年の秋、私は小学四年の年で母の里天草の栖本村馬場に着いた。父は四十五歳。兄は中学二年の年。母の年は何故か聞いたことがない。四人は平壤から引き揚げ、水上村に帰る前に、母の里に寄ったのだった。それぞれ軽い荷物を背負い、皆よごれていたにちがいない。最初に会ったのは、私と目の位置が同じ位の祖母だった。母が声をかけたが、返答がない。私はじっと祖母の顔を見ていたが、両目に涙がにじみだし、「よーもどってきたなあ」が第一声だった。

次に「カンポクエー、カンポクエー」と言った。何のことかさっぱりわからない。さつまいもを食べなさいと言っているのだと母が言った。大きなザルに、さつまいもの細いのを煮たのが干してあった。おいしかった。母の妹の息子と野に出た。二つ年上である。真っ赤な彼岸花が咲いていた。「あれにさわるど負けるよ」と言う。あんなきれいな花が、何故人間を負けさせるのだろうと、不思議でならなかった。

【なかもと・ふくじ／画家、人吉市】



西福寺跡でお世話をされている方々（前右が松本さん）

地域の方々の写真を撮った。

「はい、チーズ」と言わないでもお顔から幸せがにじみ出るお方ばかり。

この万江の西福寺と八代市坂本町の西福寺とのご縁のある石碑を山崎先生がご覧になり、一番詳しい松本さんに説明して頂いた。

帰りには、又しても急坂を危なっかしい足取りでお礼を言いつつ降りていった。

その入り口には江戸期から左の膝を立て

たお地藏さんがおられて、お参りをして帰ることとした。

そういえば、郷土史家の益田啓三さんが「山江村には江戸時代から地藏堂が不思議に多い」とおっしゃって

いた。明治13年のお堂の調査をみたら山村のお堂の約半数は地藏堂なのだ。40堂の半分の20堂が地藏堂なのである。普通は地藏堂、観音堂、阿弥陀堂と同じほどのお堂の数なのに、お地藏さんのお堂が半分とは。

愚考ながら、ご禁制の一向宗の方々が江戸の頃から地藏堂でお参りをされていたのでは、と山江の地です。

【みやほららのぶあき／FBお地藏さん調査隊代表・人吉おおくま座の会事務局】

球磨川に学びつつづける人びと

—第7回「川に学ぶ」研究会に参加して—

高知大学助教 森 明香

初夏の陽気が眩しい5月19日(日)、人吉市内で開かれた「清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会(以下、手渡す会)」主催の研究会に参加した。講師は手渡す会の黒田弘行さん。

手渡す会は、1993年に発足し、川を守るための川辺川ダム反対を展開してきた流域郡市民による住民団体だ。2008年に川辺川ダム計画が白紙撤回された後も、川を守るための学習と活動を展開してきた。その一環として2015年からは「川に学ぶ」と題し、近代治水技術が球磨川水系に席卷する以前より代々川の傍に暮らし続けてきた球磨川流域の住民の立場から、フィールドワークとセットの研究会を毎年定期的に開催している。7回目となる今回のテーマは「堤防とは何かを考える」だ。

たからこそ、今回の研究会には特に強い関心を抱いていた。以下、研究会での議論をごく簡単に紹介したい(本文中のスライドは全て、黒田弘行さんに許可を得て当日のスライドより抜粋した)。

地球上の水の存在形態をみると、川はわずか0.0000018%を占めるのみ(東京大学COREFテキスト)。こうして見ると、川は地球上の水循環の中で果たしていることはごくわずかのように見える。けれど自然界で果たす役割はとてつもなく大きい。とりわけヒトは、川が造り出す



城下町を守った自然の営み: 球磨川盆地の氾濫原は水田として開発されたが、同時に氾濫原としての機能は残り続けた。また、川辺川合流点流域の氾濫原は開発されることなく、そのまま保全されていた。洪水は溢れながら流れる。

かつて大学院生だった頃、人吉市中心部近くの川沿いで球磨川水害体験に関するインタビュー調査を行なったことがあった。事業者から「受益地」とされていた中流・下流域でさえも、川辺川ダム建設の反対の声が上がったことの基盤がどこになるのか、気になっていたからだ。インタビューでは56人ほどの方が協力くださり、いろいろなお話をしてくださった。その際、特に印象に残ったのは、川辺川ダムの賛否にかかわらず、市房ダムと連続堤防が球磨川を変えてしまった、という嘆きの声が聞かれたことだった。

「7・3水害」の語りがいまなお聞かれる人吉だからこそ、市房ダムへの批判的な声を伺うことはある程度は想像できた。他方で、連続堤防とダムの問題とがセットで語られることには、少し意外だった。そんな経験があっ

した大地の上に住んでいる。川は氾濫したり流れることを通じて、浸食・運搬・堆積という自然界での役割を果たしている。川幅には3つあって、一つは氾濫原を含めた川幅(かつて川だったところを含む)、もう一つは堤防の幅(洪水時)、いま一つは普段水が流れている幅(洪水ではない時)だという。昨今は2つ目と3つ目が川幅だと思われがちだが、本来、氾濫原も川の領分なのだ。

川は基本的な役割を果たすことで谷底平野や扇状地、自然堤防など多様な地形を造り出す。氾濫原に水田を開いた人びとは、川が造り出した地形である氾濫原に隣接した自然堤防に、居住地を築いてきた。球磨川流域でも、こうした土地利用が見られる。その典型例の一つが、黒肥地の蓮華寺橋の傍にある相良頼景館跡だ。川の氾濫原の傍でわずかに高くなった自然堤防の上に、相良氏は館を築いた。このほかに、川が造り出した地形の特徴を踏まえた人吉球磨の土地利用は、豊かな生態系を育む川を保全するようなかたちで行われてきた。その象徴的なものが、球磨川と川辺川との合流点の広範な氾濫原であり、城下町の商家の家と川との繋がりであろう。

国土地理院の「人吉盆地」は球磨盆地と人吉盆地とを一括して呼ぶものだが、地形特性を踏まえると大きな違いがある。球磨盆地の主体は扇状地の複合体であり、人吉盆地の主体は氾濫原だ。球磨盆地の北側や球磨川と川辺川との合流点など広範囲に氾濫原を形成し、そこで溢れながら城下町に洪水を流していた。上流で溢れるところがあるならば、中流・下流域での洪水は緩やかに流れうる。だからこそ、球磨盆地や合流点より下流域に位置する城下町の川沿いの商家では、かつて家と球磨川とが直接繋がった暮らしを重ねていた。急流球磨川でこのような川との付き合い方ができたのは、球磨川流域で広範囲にわたって、氾濫原や自然堤防をうまく活用し、流れの勢いを水田（氾濫原）で穏やかにさせながら、城下町に洪水を流す土地利用や仕組みができていたからである。

しかしながら、現代は連続堤防を築いて川を堤防の中に押し込めるとともに氾濫原を川の領分とせず、ヒトが進出するようになった。氾濫原を宅地化するケースは、特に都市部などで目立つ。川の役割を尊重しながらその恩恵に与ってきた球磨川流域の人びとの暮らしを踏まえるならば、そしてこう

した川との付き合いがかつては日本各地でみられたことを踏まえるならば、連続堤防が「反自然の技術」と評されることはすぐに理解できるだろう。連続堤防は川と人びとの関係性を大きく変えた。連続堤防が築かれると、川は洪水時にはひどく荒れるし、堤防の中だけで堆砂をせざるを得なくなる。天井川になることで内水氾濫による浸水被害が引き起こされる。連続堤防が破壊したら大惨事になるだろう。さらに、球磨川流域の河川工事史を見てもわかるように、連続堤防はダムとセットで建設される。流れを堰き止めるダムと、氾濫を防ぎ自然界における川の役割を堤防の中にのみ押し込めようとする連続堤防は、川とは根本的に相容れないのである。

こうしたレクチャーを踏まえ、昼食時にドローンで撮った球磨川流域の映像で氾濫原の様子や流域の土地利用を確認した上で、午後から現場を歩いて回った。レクチャーとドローン映像で学習をしたのちに実際に現場を歩くと、自然堤防と氾濫原との高低差を体感すると同時に、球磨川水系には確かに、球磨川や球磨川の支流が造り上げた大地を利活用した暮らしの痕跡が色濃く残っていた。

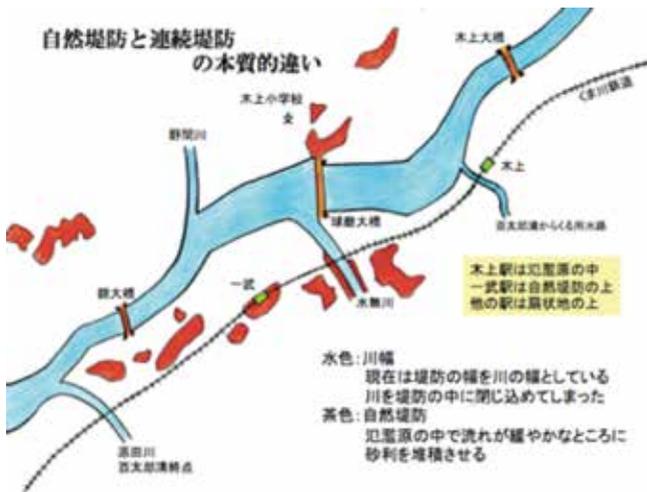
研究会を通じて、球磨川流域では、氾濫原の中で流れが緩やかなところに砂利を堆積させる自然堤防の上に居住地を築き、山の恵みである肥沃な土が流れてくる氾濫原を利活用するなどして、川の傍に在るがゆえに得られる豊かさを保全する暮らしを、長い年月の中で育んできたことが窺

えた。上流域のこうした土地利用が城下町の暮らしの在り様を支えていたことも、垣間見えた。人びとの暮らしの中で培われたこうした知恵や土地の自然を守り地域らしさを感じさせる

付き合い方をこそ、「文化」と呼ぶのだろう。そんなことを思わされた。他方で、国は連続堤防や再開発を含むダム建設、堆砂問題を解決するため導流堤を建設するなど、連続堤防とダムを用いた水害対策を今後も進めようとしている。研究会で学んだ球磨川流域の川との付き合い方を踏まえるならば、国の方針が徹底されれば間違いなく川からの手痛いしっぺ返しを受けるだろう。いま求められているのは、球磨川が育んだ自然史・社会史を丹念に掘り起こし、堆砂や大水の出方（水害）をはじめとする球磨川からのメッセージを受け止めること、そして川を堤防の中に押し込めダムで堰き止めることなく川の本分を尊重するかたちで行われる水害対策である。

研究会に参加し改めて、「市房ダムと連続堤防が球磨川を変えてしまった」という流域の方々の嘆きの声の意味が、わかったように思う。今後も、手渡す会の研究会に大いに学びたい。そんなことを思っている。

【もり・さやか／高知市】



J A やつしろ坂本支所をあるく

森山 学



写真① 母屋の正面

八代市坂本町の田上地区に、球磨川の支流・百済来川に沿って堂々と立つ下見板張りの近代建築がある。JA やつしろ坂本支所である(写真①)。八代駅から自動車で

二五分ほどで訪れることができる。

この建物は本来、昭和八年(一九三三)に建設された百済来村役場であった。なんと、いまでも正門の門柱に当時の表札が残っている(写真②)。



写真② 門柱の表札

百済来村は韃北国造・阿利斯登の子で、百済で官達率という高位につき百済の国政に関与した日羅に由来する日羅塚、百済来地藏堂(文政三年一八二〇改築、本誌第二五号)があることで知

られる。

この百済来村は、明治二二年(二八八九)、小川内、久多良木、田上、鶴喰、川嶽の五カ村が合併してできた韃北郡の村であった。初



写真③ 付属屋

代の役場庁舎は現在地から百済来川をはさんで対岸にあったようである。この建物は二代目で、昭和八年八月三二日に移転し、九月一日からここで執務を開始する。屋根裏には棟札が残っており、棟梁に高藤千太郎という名がある。

その後、昭和三六年(一九六一)に、郡を超えて八代郡の上松求麻村、下松求麻村と合併し八代郡坂本村になる。このとき、昭和三八年(一九六三)にこの建物が農協へ無償提供され、いまに至る。

ちなみにご存知のように、坂本村は十四年前、八代市などと合併し、八代市坂本町となった。

JA やつしろ坂本支所の執務室には、いつ描かれたものだろうか、かつてのこの建物の姿を描いた油絵が

かけられている。油絵と現状を比べると、屋外使所や付属家屋、塀(門より右が板塀で左がレンガ塀のように見える)が無くなっているのがわかる。それでもそれ以外は、当時の姿を今に伝えていることがわかり、感動的である。

さて、それではゆっくりとこの建物を眺め歩いてみよう。

まず目をひくのは、淡い桜色のペンキが塗られた下見板張りの外壁。日本の近代洋風の木造建築といえ、このスタイルであろう。明治時代、アメリカ経由で日本に移入された下見板コロンIAL様式という様式があり、その流れを汲むものである。

大きな総二階建ての母屋とこれに連結する平屋の付属屋(写真③)



写真⑤ 一階の待合空間。右に執務空間

真⑤)。
丸柱の上には真四角な持送りが
ついている(写真⑥)。本来であれ
ば、持送りは三角形のかたちをして
つかえ棒のように柱に力を伝える



写真⑥ 丸柱の持送り

役割をする。ときにはこの三角形に
装飾したりもする。ところがここ
は真四角である。モダンなデザイン
を強調しようとした、としか考え
られない。



写真⑦ 二階の大ホール

二階にはステージつきの大ホール
がある(写真⑦)。役場時代に議場
として使われたのであろう。天井
は、中央が平天井で周囲を掛け込
み天井とする。平天井の部分は格



写真④ 車寄せ

からなる。どちらも下見
板張りで、それぞれに入母
屋造の瓦屋根が載る。二棟
をモダンな洋風にまとめた
ものと思いきや、付属屋の
裏手に回ると、一転して縁
側のつく民家風になっている。
和洋を併設しているの
である。
母屋を見てみよう。外壁
のうち一番下の腰壁は堅羽
目板張り、胴体にあたる大
部分は板を水平に張ってお
り、最上部は白漆喰塗であ
る。全体を三層で構成する
ところは、ルネサンス以来
の古典的で安定感のある設
計手法である。
木製の枠のガラス窓が、

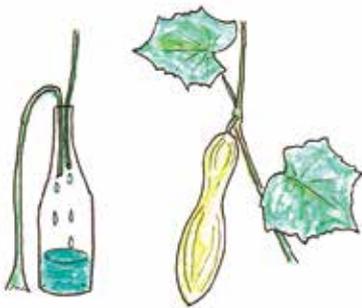
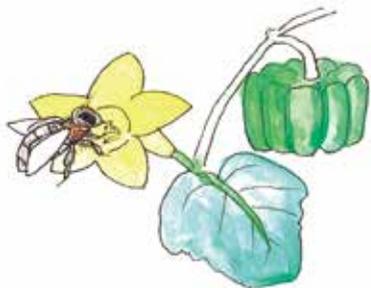
一階でも二階でも横に並んでいる。
大きな建物の奥の方まで外光が届き
そうだ。それぞれの窓の列の上下に
あわせて見切り縁が水平に伸びる。
これが外壁の胴体部分をさらに三
層に分割する。まん中の層には一階
の天井裏の換気口がアクセントをな
す。
正面の中央には鉄筋コンクリート
造の車寄せがつく(写真④)。真四
角な輪郭で、周囲には庇をまわす。
三面の開口は直線的に縁取りモダン
であるのに対し、庇の下には線型の
ある廻り縁があつて、隠し味となっ
ている。
一階はほとんどがワンルームの大
きな執務空間になっている。正面玄
関側に丸柱の列柱が立ち、来客の
待合空間との境界になっている(写

おっとわっとあすび その29

絵と文／松舟博満

ボオブラとヘチマ水

小学校の三年生ん成つまで、
本家ば我が家んごつして育てら
れておつたで、そん本家ん前庭
にや春ん成れば毎年ごてえ、ボオ
ブラ棚は作つおいやいた。
稲干し竿ん長んかとばさえん
(菜園) 畑けん柱ば立てて有つ
たで、植えらいた苗からボオブ



らん蔓の巻きちいて登つていたあ
て前庭いっぴやあ広がって日陰ば
作つおつた。
「ボオブラ」ん花ん付きぎや
うつたてば、太かクマンバチの
飛うで来て、花ん中きやあくじつ
て蜜ば吸いおつたが、そんうち
ん花ば食い破つて逃げおつた。
蔓の延びつとん止まって、稲刈
りどん終えつからボオブラ棚ば

ボオブラん棚ん下じや家ん中
よま涼しかつたで、長いすば並
べてよけまん(休憩)やら小み
んか仕事も陰んあつ所つてしおい
やいた。

解きおいやいたで、そん前んへち
まん蔓ば元から二尺ぐりやん長
さでうち切つて、先ば空の二升ビ
ンの中きや差込うで、上ん蔓ば下
さみやあ引き下げつから同じビン
の中きやあ突つ込んどけば、双方
ん蔓ん先からポタンポタンやつて
水んぐたつとん出てきおつたで、
こつば「ヘチマ水」ちゅう化粧水
んなつて云いおらいたで、溜まれ
ば母さんにやつおつた。

【まつふね・ひろみつ／青井阿蘇
神社・文化苑「童遊館」】



写真⑧ 座敷

間の大きな格天井とし
ている。これだけの大
空間を支える小屋組は
キングポストトラスで
ある。とにかく立派な
ホールである。
付属屋にもお邪魔し
よう。母屋の二階にし
る、付属屋にしる、普
段は入ることができな
いのだが。
さて付属屋には二間
続きの座敷がある(写
真⑨)。どちらも十畳
で、周囲に長押をまわ
し、天井は棹縁天井で
ある。二室の間の欄間
は「富士に三保の松原」
の彫刻欄間で、奥座敷

の押入の襖には竹林を描く。襖の
横に床の間と付書院が備えられてい
る。
二室の北面にはどちらも出窓が
設けられているが、これは外観から
洋風を意識したものであろう。南に
は二室に沿って縁側があり、ガラス
窓はなく、雨戸だけで仕切られてい
る。
お話しを聞いたところ、座敷は
会議室に使用されていたようである
が、これほどの座敷だから、役場の
頃には貴賓室的な役割もあつたので
はないかと想像する。
球磨川沿いの豊富な近代化遺産
のリストに、ぜひこの建物も加えて
もらいたい。
【もりやま・まなぶ／高専教員、一
級建築士、八代市】



上杉芳野の「あがつ段」③⑥

京都熊本県人会

先月の5月18日(土) 京都熊本県人会に招かれて京都に行った。昨年の関西しらがね会(旧上村)に呼ばれたのがきっかけで行く事になったのだろう。



京都熊本県人会の総会・懇親会 (5月18日)

京都熊本県人会の総会に招待して頂くという事は、関係者側からすると大変な事だと思った。まず、飛行機の往復代と荷物(衣装)の往復送り代金、一泊のホテル代、ざっと計算しても4~5万円はかかっている。私の30分ほどのアトラクションにこれだけのお金をかけてまでも招待して下さる事にありがた

いる娘が飛行場まで送り迎え、会場までも連れて行ってくれた。

あさぎり町免田出身の五島様と役員の皆様が出迎えて下さった。みんなが来る前の準備中にもかかわらず、手を休め「遠い所よりありがとうございます。今日は楽しみにしています」と深々と頭を下げられた。私が球磨弁でしゃべると「懐かしい」と言っていると握手をされた。自分では標準語のつもりなのに…。

都会になれていない田舎者の私を心配して、大阪に

私の出番が来た。バスガールをしたり、歌や踊り、最後には会場の

人を巻き込んでの京都宝塚劇団バラバラ組をした。衣装は宝塚の様にドレスやムーニーを着て、帽子やレ

イを身にまとい、踊りはバラバラである。初めは恥ずかしそうにしていた人も、どんどん調子

が出て来て楽しんでおられた。

として招待された様だ。私を必要として喜んで頂く事が最大の喜びである。こうして参加する事が出来たのも、まずは家族の理解、協力があつたからである。主人と娘に感謝した。

い。日頃ちゃんと、みとなつただけん、たまには体を休めて、気晴らしに行つて来て下さい。お泊まりの方はちゃんと手続きしときますので」とおっしゃって頂き、受け入れ先の福祉施設も喜んでみて下さったので、安心して行く事が出来た。

最後には夕陽キラキラの踊りを会場の全員で踊って終わった。

今の私は、主人の母(88歳)が認知症のため、2年前に仕事を辞め家で母の介護をしている。日頃は母がデイサービスに行っている時か、お泊まりの時を利用してボランティア活動を続行している。

大阪にいる同級生も手伝いに来てくれた。どんな時も、いろんな人の力で自分が生かされている。周りのみんなに感謝である。



京都宝塚劇団バラバラ組の踊り

来賓の方も気持ち良く参加して下さいました。70近いこの私を「あさぎり町のアイドル」

京都の話があつた時にも、社協のある方にお話ししたところ「行って来て下さ

【うえずぎ・よしの/ボランティア観光バスガール、あさぎり町上】

人生——100年時代(1)

久馬 凌

電化製品

久しぶりに、テレビの番組の「サザエさん」をみた。東芝が長くスポンサーだったが、同社の経営悪化でスポンサーを降りたので、変化があるか、確認しようとおもった。少し違和感があったが、内容はいままでとほとんど同じであった。原作が同じだから内容が変わるはずはないという意見もあるかもしれないが、そうではない。東芝の時代は、やたらと電化製品の紹介があった。自動車は買わないが、電化製品は簡単に買い替える一家であった。今後の展開は予想できないが、自動車と電化製品にひとまず注目したい。

磯野家の謎

磯野家は不思議である。波平さんが54歳、サザエさんが

24歳、カツオ君が11歳、ワカメちゃんが9歳である。波平さんの奥さんの舟さんの正確な年齢は不明である(女性だから、隠しているらしい)。世間では、52歳ぐらいではないかとの噂がある。そうなら波平さんと舟さんの年齢差は2歳で、平均的な夫婦ということになるうか。長女サザエさんは、波平さんが30歳のときの子どもで違和感がない。しかし、カツオくんとかワカメちゃんは違う。波平さんが43歳のときカツオくんが、そして45歳のときにワカメちゃんが生まれている。舟さんについていえば、41歳と43歳のときに出産したことになる。

それにしてもサザエさんとカツオくん・ワカメちゃんの年齢差は大きい。サザエさんの誕生後に、波平・舟夫妻の間になにかがあったか。あったとすれば、それはなにか。世間は、このあたりに敏感である。色々と言口を叩かれているであろう。波平・舟夫妻には何のトラブルもなく陰口が流れるとすれば、二人はかわいそうだが、世間はそういうウワサを好む。しょうもない世間といえどもそれまでだが、漱石先生のように、山をのぼりながら世間の疎ましさを憂いても、どうにかなるわけではなかった。漱石先生の憂鬱は、文学の世界にとどまった。僕はそのあたり、悲観論者である。

悲観論者だが、僕は好奇心が強い。とくにウワサが好きだ。世間の一般人と同じじゃないかと批判されても、一般人である僕は困る。山をのぼりながら、あれこれ考えるよりも、サザエさんとカツオ、ワカメちゃんの年齢差が単なる偶然なのか、そうでないのかを考えるのが好きだ。僕は、そのあたり、俗物である。

磯野家の教育費問題

年齢差の原因は判明しないとしても、子どもたちの年齢差が磯野家の各方面に影響を与えることは確かだろう。

たとえば、教育費問題がある。仮に、カツオくんとワカメちゃんが大学に進学するなら、波平さんは、株で儲けたり宝くじに当たらないかぎり、ワカメちゃんが卒業するまで収入を得るために働く必要がある。単純に計算すれば、ワカメちゃんが大学を卒業するとき、波平さんは67歳になっている。留年せずストレートで進学・卒業したときの話で、ワカメちゃんが受験に失敗したり留年したりすれば、事情は変わる。仮にストレートで入学したとしても、カツオくんとワカメちゃんとは2年ほど大学の在籍期間が重なる。



磯野家の間取り (sazaesanitiba.com より)

波平さんの教育費負担は、どちらに転んでも厳しい。父親とはそういう厳しさに耐えなければならぬ。

現在のところ、定年の基本年齢は60歳である。この状況に変化がなければ、波平さんは、60歳でいったん定年になり、その後、同じ会社または別会社に再就職するということになりそうである。こうしたケースは特別ではない。むしろ、普通といつてもいいかもしれない。60歳になると「還暦」を祝うが、いまでは「還暦」のありがたみはほとんどない。

「60歳? 若いですね」

これが現在の世間の感覚だ。統計的にみると、60歳前後の死亡例は意外に多く、還暦には意味があるのだが、世間はそうみていない。その年齢で天国(地獄)に召されたときには「若死」で人々の涙を誘う。100歳近くまで生きての大往生でも涙は出る。しかし、残された者の悲しみの深さはたぶん違う。

普通に考えると波平さんは、教育資金として退職金の活用を考えているのだろう。学費用の積立も考えている可

生活を考慮しても、波平さんの収入が高額だからだろう。サザエさんはすでに結婚しているとはいえ、持ち家があり、3人の子供がいて、舟さんは専業主婦で生活できている。世間から見れば、磯野家は華麗なる一家であろう。

出生率

出生率は1975年(昭和50年)以降、2.0を超えたことはなく、昨年は1.42であった。もともと高い沖縄県でも1.89で、サザエさんのいる東京は全国最低の1.20であった。出生率2.0では人口を再生産できない。少なくとも2.07の出生率が必要。最高の沖縄もこの基準からすると出生率は低すぎる。波平さん夫妻は、こういう状況を危惧して、ワカメちゃんを生んだのかもしれない。出生率の低下の原因はさまざまだろうが、それでも現実世界では、磯野家のような生活をすごせる家族は僅かだ。そのあたり、僕はリアリストである。

【きゅうま・すべる／八代市】

能性が高いが、老後の生活もあるので、退職金全額を教育資金に回せば、その後が苦しい。退職金は教育資金の一部にするのがいい。学費用の積立の他に、生命保険などにも加入しているだろうから、出費はすいぶんあるはず。波平さんは、小学生の子どもをもつ父親として、いま、あれこれと将来設計を考えているにちがいない。まさか、無計画ということはないだろう。

こういうと母親の舟さんは教育費問題の部外者かとの批判がでそうである。いや、まちがいはなく批判される。父親より母親が子供の将来を心配するのではないか。現在は、女性の社会的進出の時代。波平さんではなく、舟さんが子供たちの教育資金全額を稼ぎ出すかもしれない、など。

磯野一家の華麗なる生活

しかしながら、それ以上に、波平・舟さんの二人は恵まれているとの批判がたくさん出るだろう。派遣労働が多数を占めるようになっていいる、正規雇用は恵まれている、舟さんが専業主婦でも磯野家が貧困におちいることなく生活できているのは、マスオさん一家との同居

ついで…

げっかん・ぎびょう



— 北方領土どうなる? 展望が見えない —

北方領土返還を求め、ロシアとの交渉がなかなか進まない。日米安保条約が足かせになっているとの声、深まる。

山に行こうよ!

その18

「人吉球磨ハイキングクラブ」通信より

仰烏帽子山 (球磨郡)

2019年3月1日(金)

標高・1302m

参加者・5名

今年も福寿草の咲く頃がやって来ました。参加人員は5名、少なかつたけど土地改良区を8



仰烏帽子山の福寿草

時に出発。天気は、まずまず。風もなく暖かい日です。いつもの様に元井谷第二駐車場に、日曜日ほどでなく駐車は楽に出来ました。

さい。お腹もすいてお弁当がとてもおいしかったです。それからずっと30分遅れで人吉に着きました。【本石鈴子】

福寿草を目指して出発、沢山咲いている所に着きました。しきりに写真を撮り、4人で頂上に向かいました。梅木さんはお留守番です。ザックなど梅木さんに預けて身軽に出掛けました。

風穴を過ぎ頂上へは11時40分に、30分遅れです。梅木さんの待つ場所へ急ぎます。仏石の所にも沢山咲いていました。梅木さんと合流、すっかり待ちくたびれた梅木さんごめん



仰烏帽子山にて

維新150年を考える

坂本の製紙工場小史 (4)

上村雄一

坂本工場の周辺事情



十条製紙時代の工場周辺 (昭和39年)

坂本工場は小さな工場ではなかった。関連会社を含めると少なくとも1500人以上の労働者が働いていた。そこで、筆者が体験していた時代の様子について断片的な知識を並べてみようと思

前回までの説明から飛躍することになるが、工場末期に仕事をしてきた人の年齢を考慮するとき、記憶の残ることをメモしておく必要がある。正確に言えば、試行錯誤を重ねながら、その歴史を調べていくしかない。それが通常の研究だが、その全体を調べ確認し、論理的にまとめる時間はそれほど残っていない。走りながら考えるわけではない。走りながら調べ、その都度紹介していかざるをえない面もある。今回は、資本・労働過程・生産過程に入り込まず、工場の周辺事情を紹介するに留めようと思う。それでも詳しく説明すれば長文になる。そうならないように写真中心の短文でひとまずはすませたい。詳細は別の機会に説明しよう。

坂本工場関係資料③ 引き込み線と坂本橋

坂本工場は球磨川の右岸の盆地にあった。原料等は肥薩線開通前は舟で、開通後は汽車で、坂本の地に運んだ。当時は、国道219号線はなく、県道も工場用に利用できるほどには整備されていなかった。坂本駅まで運ばれた原料等はトロッコで工場まで運ばれた。その後、坂本駅から工場までの専用線が開通し、それが利用され



写真をみると蒸気機関車のようにみえるが、ディーゼル機関車である。西日本製紙株式会社の社旗をたなびかせていることから、昭和42年1月4日以降の写真であることが分かる。写真の背後には、「上原写真店」の看板がみえる。現在の「坂本郵便局」付近から撮ったのであろう。当時、上原写真店は坂本内の幼稚園、小学校、中学校などの記念写真を一手に引きかけていた

るようになった。

左岸の労働者は舟で通勤した。大雨のときには舟を利用できないが、「球磨川第二橋梁」を利用して対岸に渡り工場まで歩いて通勤した。地域によっては片道2時間歩き工場の仕事し、2時間かけて帰宅した。渡舟を出すか出さないかの判断は舟頭がした。対岸の岩の水位をみて舟を出すかどうか判断した。約2500トン程度の流量であれば舟頭は舟を出した。2500トンで舟を操作す



肥薩線(左)と引き込み線



トロッコ

るのである。卓越した操船技術といわざるをえない。

昭和29年5月5日に坂本橋が完成し、ようやくトラックなどの自動車を利用されることになる。それ以前には、トラック3台とオート三輪車があっただけであった。

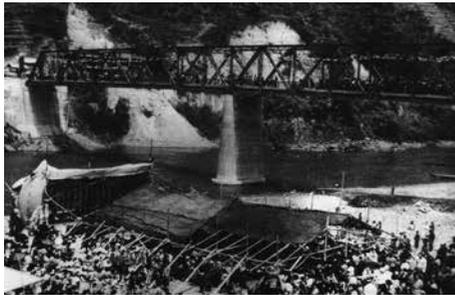
昭和27年10月21日に専用線が開通。工場専用のディーゼル機関車が活躍することになる。機関車の操作は国鉄で研修を受け、国鉄から運転士としての「免許」を受けた者だけが機関車を運転した。

坂本工場関係資料④ 福利厚生施設

坂本工場は近代工場のひとつとして、他の企業・工場と同様に、労働者の「不満」を抑制するため、福利厚



坂本橋開通式



【坂本會館】火曜と金曜の週2回、ここで映画を上映した。講談や演劇もおこなわれた

生施設を設立した。工場労働者を優遇する措置として意図したのであるが、地域住民もそれらの施設を利用した。現地採用の労働者は従業員であると同時に地域住民でもあり、地縁・血縁に根ざす地域共同体のなかで生

活していたのであって、工場は従業員とそれ以外の住民との差別化を回避したのであった。



【清和荘】会議、舞踊の練習・披露などがおこなわれた



【附属病院】



【浴場】シャワーもあった。ロッカーは広くて大きく、320人が同時に利用できた



【アパート(社宅)】



【生協】外観



【生協】内部



【体育館】柔道、剣道、バトミントン、卓球などがおこなわれた。体育館のほか、テニスコートなどもあった

坂本工場関係資料⑤ 産業廃棄物

ものをつくるるとき、廃棄物が出ること、廃水がでること、異臭がすることは誰もが知っている単純な事実だろう。自然を加工・利用することによって人間生活は成し、その活動が自然のメカニズムを破壊しない程度にとどまっ

ているときには問題はないが、機械制工業にはじまる大量生産のものは、自然との調和は失われて、人間の生命も失われる転倒した結果をもたらす。

チツンの有機水銀の排出は典型例だろう。坂本の工場も例外ではなかった。たとえば、産業廃棄物は球磨川に捨てる方法がとられた。坂本橋から満尾鉄工所、グリー



渋利登口付近。写真をみると「坂口産業」の名前がみえる。坂口産業株式会社のことである。同社は、昭和23年7月1日に王子製紙坂本工場の専属下請事業所として発足。熊本市山崎町に本社を置いた。昭和42年1月4日、坂本工場が西日本製紙株式会社の工場になるとともに、「専属業者」から「協力会社」に呼び名を変更された。昭和63年、西日本製紙株式会社の解散にともない解散した

ンパーク・駐在所・坂本支所・坂本コミセン等までの土地はすべて廃棄物の上にある。同地の字名は「鶴地」で、「江子の舟溜まり」と呼ばれる船荷の下ろし場であった。坂本公民館報「さかもと」第166号(昭和57年3月15日)は、「松崎部落の戦前の模様を知っている者にとっては、この部落の戦後の変わりようは日本の戦後の経済成長のモデルを見る思いがするだろう。…そもそも、役場などが建っている鶴地は西日本製紙の前身、十条製紙、王子製紙が永年にわたって投棄した廃棄物でできた台地である」とする。

道の駅坂本も同様である。スッポン、うなぎが生息した地に廃棄物が捨てられた。その場所は「ガフ」とよばれた。渋利登口の付近なども同様である。後者は平成19年7月7日の大雨のとき崩壊し、そのため、国道219号線は3日間不通となった。幸いにして、崩落時に車両の通行はなく人身災害にはならなかったが、それは偶然にすぎない。確率的には大きな事故になりかねない事態であった。

【うえむら・ゆういち／編集主幹】

鶴鴿短歌会

五月詠草

こま^{こま}まと家計薄つけたる妻の書に在りし日のこと次々^{かえ}甦りて
手をついて暇乞いする孫娘親も親なれ娘も人となれ

守永 和久

ゆく春に田んぼ耕す耕運機二羽の白鷺つき添い歩く
女の人の畠の豌豆^{えんどう}収穫す野良着姿が風に薫りて

河内 徹夫

お互いに歩幅は狭くなりぬれど足どり軽き夫にエールを
新しき部屋に机運ぶ孫淡色カーテン薫風に揺る

中村美喜子

いちゲームホールインワン三個ありダイヤモンドと人は言ふなり
夢に見たダイヤモンドの栄光に日ごろの練習ここに実らむ

西 武喜

夫逝きて一年半も過ぎたるに前ぶれなしに悲しみ襲ふ
鯉のぼり端午の節句に二本だけ少子化村の令和となるや

釜田 操

献立に人参一本ほしいけど免許返納買い物行けず
這ふように急な坂道よじ上ぼり竹の子もいで朝の味噌汁

三原 光代

免許証返納すべきか悩みおり亡夫^{つま}に問うても言葉返らず
更新に揺れる心をチャンスとし今回までは継続にせむ

中原 康子

五月晴れ早乙女姿どこもなく田植え機ひとつが棚田の中に
「令和」の世万葉人の世に倣い心豊かにわが終活を

橋詰 了一

途切れなく桜吹雪の舞ひ散りて波立つダム湖に錦を織りぬ
数か月経てど時折り蘇^{よみが}える亡き妻のこと涙と共に

堀田 英雄

宝永元年十月「利根川・荒川浚御普請手伝いに付…」 人吉藩の借金と返済計画及び江戸経費節減計画①

尾方保之

はじめに

慶長五（一六〇〇）年の「関ヶ原の戦い」の三年後の慶長八年、江戸幕府が成立し、二十代相良長每公ながつねは、徳川幕府により朱印高二万二千石余の本領が安堵された。



文書表紙「宝永元年甲申歳十月 利根川・荒川浚御普請御手伝付…」
(広島大学図書館蔵)

朱印高は、二万二千石余だったが、その外に新田高があり、新田開発が積極的に進められた結果、百太郎溝や幸野溝が完成する宝永年間（一七〇四〜一七一〇）には、三万石ほどの新田高が生まれていた。よって、藩の総高（内検高）は、五万三千石余となった。そのため、年貢米も二万四千石余（四割六分）となっていた。

しかし、五代將軍徳川綱吉の元禄時代（一六八八〜一七〇三）頃から災害が頻発するようになり、収入が伸びない中で藩の財政支出は増加していった。その要因は、参勤交代の経費増大であり、また、幕府命令の接待役や普請手伝いによる臨時支出の増大があったから

である。藩は、領民へ儉約を呼びかけるとともに、財政支出の削減をすすめたが、それでも不足するため、増税か借金以外に方法がなかった。

借金と増税がそれ以後どの藩においても避けられなくなっていくのである。人吉藩において、主な増税の始まりは、元禄十四年（一七〇一）からのようである。藩は、参勤交代の経費が不足したため、年貢米一石に付き三升の増米を決定している。

そんな中で元禄十六（一七〇三）年七月、台風による大雨洪水によって大きな被害を受けた。それに続いて、翌年の宝永元（一七〇四）年八月、またも台風が襲来した。これについて、相良家の歴史書『嗣誠独集覧』しせいどくしゅうらん（以下「独集覧」）は、「八月廿三日、求麻大風雨洪水、社堂、民家大破、転家九十余軒と云々」と記している。ところが、災難は、それだけでは終わらなかったのである。

関東地方に於いて、この年の夏（六月）、大雨洪水が発生し、利根川や荒川などの堤防が各地で決壊し、田畑や民家が大破していた。

幕府は、利根川や荒川などの普請手伝いを人吉藩をはじめ、諸国の四人の大名に命ずることにしたのである。

一 利根川・荒川の普請手伝い

幕府の普請手伝いについて、「独集覧」は、「同年夏関東筋洪水、利根川、荒川横流数十里之塘破損ス、因是十月廿一日、福公（藩主頼福）自「大樹」被_レ為_レ召修補御手伝被_レ蒙_レ仰…」と記している。

宝永元年十月二十一日、五代將軍徳川綱吉は、二十三代相良頼福公ら四人の大名を呼びつけ、六月の災害の普請手伝（川浚）せうじんを命じたのだった。

人吉藩が普請手伝いを命じられたところは、「総州（千葉県）中谷村ヨリ同新嶋領都ノ宮迄、常州（茨城県）河

内郡柴崎村ヨリ総州新嶋領迄」となっており、その普請の距離は、十六里程（64^キ）となる。そして、入札金高は、二千七十両余（銀一二四貫程）としている。金一両を現在のお金で十万円ほどと見ると、二億円を越す金額となる。

その他、多額の経費と労力を必要とする普請手伝いは、翌年宝永二（二七〇五）年二月十一日から開始された。

総奉行は家老の米良半右衛門、元締に松本七右衛門と内藤武助が任命され、彼らは節々工事を見回った。普請奉行は、出田佐次右衛門と上原伝右衛門の二人で、一人ずつ現場に詰めて、工事の指揮に当たることになった。他にも多くの任務分担があった。

「独集覽」によると、普請手伝いが命じられると、藩はすぐに江戸より家臣を京都に派遣し、京都の銀主より銀六十貫目（金一〇〇〇両）を借用したようである。

普請手伝いはうまく進行したらしく、二ヶ月後の四月十五日には完了した。

藩主頼福公は、四月二十八日登城し、將軍綱吉に報告、ご褒美として拾十枚を拝領した。

普請関係者もそれぞれ褒美をいただいたという。

宝永二年には、幕府の普請手伝いの他にも、大きな普請工事が開始されたのだった。それは幸野溝の最後の開削工事であり、百太郎溝の四期工事である。多くの資金を費やしたと思われ、藩にとって財政的にも政治的にも厳しい一年であったにちがいない。

二 借金の計画

宝永元（一七九四）年十月、幕府から利根川・荒川の川浚さいらいと堤防修理の普請手伝いを命じられた藩は、すぐに三つの取り組みの計画を立てた。

「相良家文書No.167」（広島大学図書館蔵）によると、

一、御借金の積

一、江戸諸事御勘略積

一、御在府、御留守惣人数積

となっている。

第一は、借金と返済の計画、第二は江戸経費の節減計画、そして、第三が参勤交代による江戸滞在家臣の節減計画である。そこで、まず借金の計画から見て行きたいと思う。

史料は「宝永元甲申年十月廿一日、利根川、荒川浚御普請手伝仰付られ候に就いて御借金、並に御返済の積り等左の通り」と次のように記録している。（読み下し文）

覚

一、銀 三百貫目

此の銀、申（宝永元）十一月御在所へ仰せ遣わされ候御蔵御用銀より出候て参る筈。

一、銀 三百貫目

此の銀、申暮京大阪に於いて御借り成され候筈。

一、同 四拾六貫四百目 但 八百両（一両＝銀58匁）

此の銀、江戸御用銀に加る筈にて、米良半右衛門便に御在所より来る。

一、同 拾八貫目 但 三百兩（1兩＝銀60匁）

此の銀、江戸御屋敷御出入りの町人共借上げ申し候。

四口合 六百六拾四貫四百目

右の銀子、今度御普請御入用銀の御当介にてこれ在る分也。

まず、在所人吉の御蔵御用銀（藩の貯蔵金で返済を要す）から送金されて来る銀三百貫目（金五〇〇〇兩）と今年宝永元（一七〇四）年暮、京大阪の銀主から借用される予定の銀三百貫に加えて、人吉から送られて来る江戸御用銀、四十六貫（金八〇〇兩）、さらに江戸町人から借用予定の銀十八貫目（三〇〇兩）を加えて、合計六百六十四貫四百目が来年二月からの普請手伝いと諸経費の入用銀になる予定という。

金と銀の交換比率は、元禄十三（一七〇〇）年より、金一兩＝銀六十匁＝錢四貫文（四〇〇〇文）となっている。よって、銀六百六十四貫は、金では一一、〇〇〇兩を超す金額である。この金額は、人吉藩の年間経費（銀六百七十貫余）とほぼ同じ金額である。このお金が普請手伝いの経費としてどれだけ使用されたのかについて、その詳細は分からない。

三 借金返済計画

宝永元年（申）暮に準備された銀六百六十四貫余のお金は、宝永二年酉年から返済が開始されることになる。返済の中には、別の借金も含まれていた。

宝永二年の返済金を含めた年間の必要な金額について、「来酉春御入用御銀高之覚」として、次のように記録している。

来る酉春（宝永二）御入用御銀高の覚

一、銀 百貫目

此の銀、申（宝永元）八月大阪に於いて御借銀成され候て、江戸御遣用に成り申し候。此の御返銀に入る分也。

一、銀 八貫目

此の銀、右御借銀百貫目の利銀に御返済の入る分也。

一、同 三百貫目

此の銀、今度普請に付、京大阪に於いて、申暮御借銀成され候御返銀に入る分也。

一、同 拾八貫目

右三百貫目の利銀に御返銀に入る分也。

一、同 拾八貫目 但 三百兩

此の銀、江戸屋敷御出入りの町人共借上げ申し候銀子の御返済に入る分也。

一、同 壹貫八百九拾目

右拾八貫目の利銀に御返済に入る分也。

一、三百貫目

此の銀、来る酉三月より翌年戌（宝永三）二月迄、江戸御留守中諸遣用。

七口合 七百四拾五貫八百九拾目也。

内、
一、百拾貫目

此の銀、江戸御蔵御用銀に入り申す筈にて、申冬造便に御在所より来たり候銀子にて、御金役所にこれ在り。

一、四百五拾貫目

此の銀来る西春御在所より遣わされず候得ば、相叶わず候。

内

一、貳百拾五貫四百五拾目

来る西春御在所より遣わされ候銀子。此の外はこれ無き様に御在所勘定所よりの帳面に相見へ申し候。

一、貳百三拾四貫五百五拾目

此の銀御在所御蔵御用銀より出候て遣わされる可く候。

右引残りて不足

一、銀子百八拾五貫八百九拾目

此の銀高、来る西春大阪に於いて御借銀成され、右の七百四拾五

貫八百九拾目都合仕り諸御払い方相済し申し候。

右の通りにて段々亥年（宝永四）春迄に御借銀御皆済成され候積り左の通りに御在所勘定所よりの帳面引合せ候。

宝永二年の必要な銀高として七百四十五貫八百九十匁（金一二、四三一兩）が上げられている。その内容は、まず昨年八月大阪に於いて借用された銀百貫目（金一、六六六兩余）の返済である。その利息が銀八貫目、合計百八貫目であ

る。これは江戸屋敷の必要経費として、借用されたものであった。

次は、昨年暮れに普請手伝い用として、京大阪の銀主から借用した銀三百貫で、その利息が十八貫（6%）となっている。

同じく昨年暮れに普請手伝い用として江戸屋敷出入りの町人たちから借用した銀十八貫目（金三〇〇兩）である。その利息が一貫八百九十匁（10・5%）である。

そして、最後に銀三百貫目（金五、〇〇〇兩）がある。これは、宝永二年の三月から翌年の宝永三年二月間での江戸屋敷の留守中（藩主人吉在住）の経費である。

これらの七口の合計が銀七百四十五貫八百九十目となる。

この金額の内、百十貫目は江戸の御蔵御用銀として、在所人吉から送金されており、金役所に保管されているという。また四百五十貫目も宝永二年の春に在所より送金されなくてはならないものである。

この銀四百五十貫目の内、二百三十四貫五百五十目は、人吉の御蔵御用銀（要返済）より貸し出される予定という。しかし、百十貫目と四百五十貫目の合計、五百六十貫目だけでは、百八十五貫八百九十目が不足することになる。よって、宝永二年の春、大阪に於いて借金することによって、七百四十五貫八百九十目が都合がつき、支払いがすむことになるという。

このようにして、次々に借金して宝永四年亥年春までに大阪商人からの借金の皆済が終了する予定であると計画しているのである。

(下)に(上)く

【おがた・やすゆき／球磨郡錦町】

藤原宏さんの 連載が一冊に

週刊ひとよし時代から連載されていた藤原弘さんの「外来語から学ぶ英単語」が一冊の本にまとめられた。収録項目は500にわたり、B5版252頁で、外来語の語源を辿る読み物となっている。藤原さんはあとがきで「私ももう85歳、浅学菲才の身で辞書や文献頼りの四苦八苦の作業ですが、連載を始めてから既に15年の歳月が経過しました。これもひとえに、読者の皆様の『読んでいるよ』との励ましのお陰と感謝申し上げます」と述べている。



読者20名にプレゼント

藤原さんのご好意により、この本を読者20名にプレゼントいたします。巻末に表記の本誌編集部宛に、ハガキ・電話・ファックスでお申し込みください。

奥球磨、湯前町の偉人 那須良輔と北御門二郎 ⑥

村木正則

三、生粹のトルストイアン、北御門二郎 ①③

昭和五八年に地の塩書房より出版された『文読む月日』について、政治学者の姜尚中^{カワサキ}氏が次のような推薦文を寄せている。

「トルストイがその生涯を賭けて見出したもの、それは愛だった。偉大な文豪は一切の虚飾、一切の思弁、一切の意匠を取り去った果てにそれをみいだしたのだ。この真理を見失った精神の荒野に本書に収められた言葉のひとつひとつが、甘露の慈雨のように降り注ぐ。この潤いの雨こそ、万感の書物にも勝ることを本書は静かに、力強く語ってくれる。自由と独立と自己を恣^恣にしながら、孤独と不安に苛まされる現代にこそ本書は読まれるべきだ」。さらに同氏は「世界で一冊だけ残したいと思う本は」と質問されて

外来語から学ぶ英単語 (39) …… 藤原 宏

「外に(へ)」を表わす合成前綴「ex-extra」 エグジット・エキゾチック・E.T.・エキス・エキストラ

「ex- (エクス)」は「外に(へ)」を表わすラテン語系の接頭辞です。デパートなどで見かける「Exit (エグジット)、出口」には、「外出・退去・退場・死去」などの意もあります。

「exotic (イグゾチック)、異国風の・エキゾチックな・外国の」は、「風変わりな・普通でない・新種の」の意で、名詞として「動植物の外来種・外国語・外国車」などの意でも使われます。

Steven Spielberg (スティーブン スピールバーグ) 監督の映画「E.T. (イー・ティー) (1982) は、「Extra (イクストラ、外の) + Terrestrial (テレストリアル、陸上の・地球上の) 地球外のもの」の頭字語です。

エキスは「ex (外へ) + tract (引く)」が原義の「extract (エクストラクト)、引き出す・抽出する・抜き出したもの・抽出物・引用句」の和製の略語です。

映画の群衆用出演者の意のエキストラ (extra) は、「extraordinary (イクストラオーディナリー)、extra (枠外の・範囲外の) + ordinary (通常の・正規の)、普通でない・並外れた・定員外の・特別任用の」の短縮形と考えられています。

(406)

「北御門二郎訳『文読む月日』と答えている(第一六回東京ブックフェアにて)。

石田昭義さんにとって出版はゼロからのスタートであったが同書の上下巻(各四五〇頁)の出版に挑んだ。石田さんは「ひとりでも多くの日本人にこれを読んでもらいたいから、リュックに詰めてでも売って歩きます」と意気込みを語り、二郎さんは「訳者冥利に尽きる」と語った。以後二郎さんの翻訳本を「地の塩書房」が中心的に出版することになった。尚、後に同書はちくま文庫より文庫本化された(上中下三巻)。「地の塩」とは「塩のように目立たずに人のためになるようなことをやれ」というキリスト教の教えに基づくものである。

二郎さんによる長編三部作の出版によって多くの祝辞が寄せられたが、代表しておふたりの祝辞を紹介しておきたい。おひとりは大阪外国大学の法橋和彦教授(ロシア文学、一九三二-)の書評である。『戦争と平和』上巻を読み終えて言えることは、それが頭によってではなく心臓から送り出されていくように翻訳されているという動かしがたい感銘である。つまり北御門さんの日本語訳が生きたトルストイによって送り出される血液のように翻訳の全体にく

まなく生命を与えている。」と二郎さんの翻訳を入魂の翻訳と絶賛された。

もうひとりとは評論家小林秀雄さん（一九〇二～一九八三）の推薦のことはを紹介しておきたい。「今度、東海大学出版会から北御門君の翻訳で、トルストイの三大小説が出版されると聞く。私は北御門君の市房山麓の家を訪ねたことがあるが、非常に強い印象を受けた。今日ではもう忘れられてしまったトルストイアンという言葉が、北御門君の住居全体から突如として蘇り、その生々しい感触に驚いたのである。今度の訳は、現代の風潮から全く遠ざかり、あの住居で黙々と努力のうちに成ったことと思う。訳は純粋トルストイアンだけが持っている力に貫かれていることを信じざるを得ない。」と記している。

一九七九年にソ連の作家同盟からの招待により二郎さんは二度訪ソしている。最初の九月の訪ソは念願のヤースナ・ポリャーナでのトルストイの墓参が実現した。二郎さんは記している。「写真で何度も見たことのある墓。その墓がひっそりとそこに横たわっているのを見たとき、私は感極まって涙を流した。なんとやさやかな墓であろう。何というさりげない周囲の佇まいであろう。世界をあれほど動か

んは番組の関係で湯山の二郎さんを訪ね対談をしている。その時の対談が「トルストイの涙」（青風舎）として出版されている。

澤地さんは現在も「九条の会」の呼びかけ人として憲法九条を守る全国運動の先頭に立っておられる。二郎さんもかつては地元を中心に九条を守る運動を支援し、求めに応じて講演を行い九条の大切さを訴えていた。九条に関しては二郎さんも澤地さんも遵守で完全に一致していた。二郎さんの九条についての考えの核心は、「九条は理想に過ぎないとの意見もあるが、理想のない現実とは一体何でしょうか。それは大海を羅針盤もかじもなく漂う小船ではないでしょうか。つまり、理想は正しい方向を示す心の羅針盤なのです。理想を否定する現実こそ人々を滅びに導く迷妄です。ひとりでも多くの九条の理解者が理想への一歩を進めること」が二郎さんの願いであった。大変易しい表現であるが二郎さんの魂の叫びとして重く受け留めたい。

【むらき・まさのり／川崎市】

してきたトルストイの墓が今、私の目の前に可憐に横たわっているのだ」と記している。二郎さんは自らの人生で最大のクライマックスシーンを記憶に留めるために、墓のそばの土を自分が亡くなったらいっしょに埋めてもらいたいと願い持ち帰った。この年二回目訪ソとなる二月に「第五回ロシア・ソビエト文学翻訳者国際会議」に出席し、その席でロシア語でスピーチをしている。二郎さんの信念がよくわかる部分を次に紹介しておきたい。「トルストイが私にとって大事なものは、何よりも彼が『全人類は国籍・人類の如何を問わずみんな兄弟であり、いかなる口実によっても互いに殺戮し合うべきでない』と教えたことによるのである。彼の作品は単にロシア民族に属するものではなく、全人類の財産と言うべきだ」

二郎さんの翻訳に対する評価は一九七九年の第一六回日本翻訳文化賞の受賞によって確固としたものとなった。その後一九九四年西日本文化賞、一九九六年熊本県近代文化功労者を受賞している。二郎さんの名前は内外で知られるようになった。また二郎さんはNHK教育テレビでも一九九二年九月に番組で紹介され、作家の澤地久枝さんと共に出演している（「イワンの国のものがたり」。澤地さ

くまがわ狂句

村上鬼拳

どつかまア 墨絵の如たる天守閣
減量中 逃げた愛取り戻したい
寝つかれん どれ徘徊と洒落ようか
旬 薬味はそうよ抜いてくれ
乗り遅れ テールランプの恨めしき
早や一年 青雲な何処へ行つたらか
サンキユー 降る如つ縁の有つたらて
せからしき お茶の心境にはなれん
浮き浮き こるが恋ちゅうもんかしら
耳に栓 株主がどう騒ごうと

【むらかみ・きけん／人吉市】

漢和字典は面白い

慢

自慢・傲
慢・怠慢・
慢心・慢性と、
ちよつとマイ
ナス・イメー

ジの言葉が浮かんでくるが、マンガ(漫画)・まんじゅう(饅頭)・幔幕とくれば満更でもない。慢・顰・顰みな同じ旁を持つている。あれは一体何なんだ? 「曼マン」は①ひく・ひっぱる
②ながい ③広い・かぎりがない ④うつくしい・つやがある ⑤たくみな・口先のたくみな」といった意味を持つ。なるほど、ダラーンと長く伸びる状態。そう、ダラッと伸びた蔓の姿。ピシッとせい! と叫びたくなる(自分に対して)感じ。

縁

合縁・奇縁・縁談と〈ゆかり〉の意味。第一義は《衣服の縁飾り》だ。次に②よる ③えにし・由縁 ④まつわると続く。仏教用語の因縁はまさにぴたり。畳の縁(へり)はこれで充分だが、ガクブチの場合は「額縁」と木偏の字を書くようだ。この字は本来は「たるき」棟から軒にかけ渡して屋根を支える木材」だったが、額縁が丈夫な木材でできているのでこの字を使ったようだ。糸偏では、何か弱そうですぐ毀れそうだから。最近では金偏・プラスチック偏になりつつあるか?

憂

〈憂鬱・憂愁・杞憂・憂慮、「憂」は〈うれい〉。好い精神状態ではない。人が憂えると「優」へすぐれる・優しい〉と大変身。優美・優雅・優等・優秀、果ては優勝・賞状・トロフィー・優勝旗、ときには賞金まで…。古代ギリシアのオリンピックでは、月桂冠だけ? もちろん名誉は残る。四年に一回のこの時だけは、ポリス間の戦争も一時中止。今のオリンピックは、国家の威信・経済的利益がギリギリ。初心に帰り、もっと《平和への灯》にすべきではないか?
俳優の「優」は〈大きな仮面を付けて舞う人〉わざおぎで、神に捧げるものだったが、今は? 【つるかみ・かんじ／人吉市】

砂時計 — 思い出るままに — ⑧

小野武己

【Ⅱ】母の心

③カレライスの話

小学生特に五年・六年の頃の僕は丁稚どんであった。虫の居所が悪くて、例の「筆啓上さん」が出ない限り母の言い付けを、時にはぶつぶつが出ることもあったが、反面嬉々として用事をこなす良い息子であった。

このあだ名は、博多の叔母(母の次兄で九電社長の叔父の奥様)が付けたのだが、一旦癩癩を起すと襖や障子に爪を立ててバリバリと破るのであった。多分に、何とか皆の注目を引きつけたかった、母に何か言葉を掛けて欲しいというところであったのだろうが、みんなが知らん顔していたりとか、黙々とお針の手を進め、ポトンと縫い差しし綿の着物

に落ちた母の涙を知ると、いかにもバツが悪くなってしまい、すぐすごと押し入れの自分の指定席に籠り、夜、皆が寝静まってから、こっそりと蠅帳の中のご飯粒を口に含んできて、その破れを繕うのであった。

僕は小さい時から、身体に吹き出物が出来やすい体質だったみたいで終戦後、上海から引き揚げて来て、長崎県の相浦町に身を寄せ、ギンシャリのお握りの嫌な思い出を経験し、次に母の里である福島県の飯坂町に一年半ばかり暮らし、次に母の里である福島県の飯坂町に一年半ばかり暮らし、次は休んだことがあった。当時、引き揚げ者の中で言われていた、何かは定かではないが、「大陸ガサ」といって、内地の者に嫌われた病気があった。その時の僕も「大陸ガサやーい」と言つて、敬遠された苦い出来事を母から聞かされたのだが、今にして思えば、多分「水ぼうそう(水痘)」であったと思われる。

上海から送つておいた母の着物を持って、田舎に行き、お米と物々交換してもらつたり、この飯坂町の母の一番上の兄が飼つていたニワトリさんをつぶして食べたたり…、やはり窮乏生活であったのを見かねた九電社長の叔父に呼ばれて博多

に移り、警固小学校で二年生まで過ごし、次に、佐世保市の早岐町に引っ越したのであった。それが昭和25年の夏であった。朝鮮戦争が始まり、特需景気で、世の中は活気を呈して来ていたのだが、それでも我が家の生活は楽ではなかった。ギブミーチョコレートの話を書き記したが、アメリカの兵隊さんには他意は無かったのだろうが、僕は子供心にも、惨めな気持ちになつてしまい、意地でも拾わないぞ、と思つてしまったのであった。

五人の子供を抱えて母は苦勞した。裁ち台の前に座つて、お針仕事に勤しんでいる母の姿ばかりが、僕の脳裏に鮮明に焼き付けられて離れないのである。東京の女子美術大学の裁縫科を卒業したのだが、まさに芸は身を助くを地でいき、生涯二千五百着の着物を縫つて、貧しい家計を助けたのであった。

絹の着物を縫う時は、水仕事をすると指先がささくれ立つて困るので、丁稚ごんの僕は母の手足になり、いろいろな仕事をこなしたものだつた。

まだ水道が引いてなく、階段ありのおよそ20メートル位だったが隣の森田さんの家の井戸からの水運びや、額に汗

であつた。

ナタを振るつての薪割り、七輪の火起こし、タドン、練炭に火を点けるのも上手であつた。食事の後片付け、ぶつぶつ言いながらも僕は存外茶碗洗いが好きであつた。井戸からの水汲みが大変なので、少ない水で上手に洗う。綺麗になつた茶碗の、キュッキュという音と手触りがとても好きだつた。

包丁扱いは戦々恐々だったが、台所から裁ち台の母に向かつて声を張り上げる。

「お母さん、短冊つてどかん切ればよかとね」

「お母さん、千切りつて、どかんすつとお」

「サイの目つて、双六のサイコロみたいに切るつちやろ」

「ぶつ切りが、いっちゃん難しがあ。目安のなかけんが」

今夜は大根を線切りにして厚揚げとネギを入れた味噌汁と、誕生日ではなかったが大奮発して豚肉のカレーライスが晩御飯だ。当時は我が家はカレーライスは牛肉ではなく豚肉だつた。だから当時の僕は豚肉カレーが本当と思つていたのであつた。ヤスオ君のおばあちゃんが天秤棒から変わつてリヤカーで売りに来たのを買っておいだニンジン、ジャガイ

しての畑仕事に精を出し、肥え汲みもした。

五羽のニワトリさんの世話。貝殻を細かく砕き、ハコベを刻みながら、「ニワトリさん、沢山卵を産んで頂戴ね」と願つたものだったが朝、多くて二個しか産んでなかった。一個は父が食べ、残り一個は五人の子供が順番に食べたのだが、母は殆ど食べなかつたみたい。沢山産んでくれたらそれだけ早く、卵かけご飯を食べる順番が廻ってくるというものだ。母も食べられたと思う。

買い物籠を提げてのお店巡り。お米屋さんで、ニワトリさんのご飯の配合飼料をも貰つてくるので、段々と重くなる籠を右手、左手と交互に持ち替えては、クラスの子に出会わないように祈りながら、踏切を渡つて帰ってくるのだった。でないと、クラスのおしゃまさんに見つかつた翌日の休み時間、教壇の前に並んだ女性コーラスが耳に喧しいのである。

「小野おじさん、買い物籠提げてどこ行くの」

「小野おじさん、買い物籠には、何んの入つとつとお」

「小野おじさん、似合つとるばーん」

「この、このやろー」つて、追いかけても、このおしゃまさんは、女だてらに全校一足が速いので、到底追いつかないの

も、玉ねぎを切つて準備したのだった。多分、京屋呉服屋さんから頼まれた振袖の着物でも仕立てあがつたのではなからうか。仕立代の高い振袖の着物じゃないと豚肉が買えるはずがないと思う。珍しく母が、ちよつと出かけてくるね、と言って、下駄をカラカラさせて出て行ったのは、着物を届けての帰りに買い物をしてきたのであろう。

帰つて来ると、そのまま台所に立つて晩ご飯の支度であつた。

「タアちゃん、カレーライスの材料の野菜、上手に切つたわねえ」

やがて、カレーの匂いが漂いだし、裁ち台の隅つこで宿題をしている僕の唾液腺を刺激する。奥の部屋から妹、弟がとんできて「お母さん、今夜はカレーたいね。大好物じゃがあ」と期せずして二人同時に大きな声を上げて嬉しさを露わにする。

「沢山作つたから、お代わり、たんと出来るけんね」

母の言葉も弾んでいる。外米・麦ご飯でお代わり三杯、お腹一杯になつた僕は動くのもノロノロとすくさま押し入れの指定席に籠つてしまった。実は社会の宿題が残っていたの

だった。これは明日すればいいや、と押し入れから降りて布団に横になる。

寝るときは、三人川の字だ。モゾモゾしながらなかなか寝付かれない。

お母さんが、京屋呉服屋さんの次に着物を届けた「つよし屋さんからお土産のグリコキャラメルを二個貰ったのだった。

「シー坊、今日のグリコのおまけは、どげんだったね」

「うん、セルロイドの機関車じゃったよ。D 51だったかな。とてん好きだからうれしかったあ」

「マコちゃん、何んだったあ」

「うん、セルロイドの小さなキューピーさんだったよ。裸だったから、なんだか恥ずかしそうに見えたつちやけどお」

なんて、話しているうちに二人は寝てしまったみたい。

【おの・たけみ／小児科医院院長、宮崎市大塚町】

もう一つの“明治維新”

―壊滅寸前の仏教を救った僧侶「黙雷」⑤

富永和信

以外は無しとする極めてシンプルな宗教理念へと進んでいった。

これはなぜか。後述するように黙雷が参加した欧米先進国の宗教事情の長期視察、その実体験によってキリスト教のとてもなく根強い“宗教力”を知ることから彼自身の考えに変化が生じたに違いない。

明治政府は明治四（一八七二）年から同六年にかけて、岩倉具視を

仏教界初の欧米先進国視察

仏教の再興とキリスト教の排斥をセツトにした幅の狭い宗教論から

スタートした黙雷であったが、その考えに変化が生じた。その変化は、仏教再興は他教排斥論ではなく仏教自身の自己努力（改革）による

団長に大久保利通、木戸孝允を副団長とする各界各層の百数十名の派遣団を欧米先進国に送った。

これは近代国家の諸制度を学ぶためと、過去に結んだ不平等通商条約を改正しようとするためである。と同時に婦女子など多数の留学生をも含めており、当時の状況から見て、極めて刷新にして大胆な施策であった。またその中に宗教界代表を含めたことは注目に値する。

【余談】派遣女子のなかに幼い六歳の津田梅子がいた。後に現在の津田塾大学の前身となった女子のための女子英語塾を創立している。

黙雷は明治五年一月、本団に二ヶ月遅れて本願寺門主代表梅枝の補佐役としてドイツ・イギリス・スウェーデン・ギリシャ・エジプト・

エルサレムなどで国家と宗教のあり方を学んだ。黙雷はその修学のなかでキリスト教の強大な存在力を感じ取ったのである。

この先進国視察が黙雷のその後の理論武装を一層強め、仏教再興活動に拍車をかけることになる。つまり先進国においては以前黙雷が排斥すべきと思っていたキリスト教が国教の位置づけで大宗をなしており、国民の精神文化・社会文化の基盤となっている事実を目の当たりにして、その底知れぬ大きな力を認めざるを得なかった。

そして熟慮に熟慮を重ねた結果、予て自分が主張していた「政教分離」と「信教の自由」の中で、この強力なキリスト教に対抗するには、「仏教の再興以外には無い」に至っ

た。この最後の結論について言えば、いささか独善的な考えに走った気もするが、我が国の本来の宗教、すなわち仏教を護ろうとする黙雷の必死の叫びではなかったのではなからうか。

黙雷の社会事業の功績

黙雷は明治政府の宗教政策に対しては仏教を護るという立場から、一步も譲らない強硬な論陣を張ったが、他方においては極めて進歩的で柔軟な現実即応の人であった。

特に当時としては他に例を見ない社会事業を実践した。その数々の業績のうち主なものを述べておきたい。

明治四（一八七二）年、仏教の普及活動のため仏法のみを読み物でない一般雑文を取り入れた『新聞雑誌』を創刊し、結果的に仏教の普及に大いなる成果をあげた。ちなみにこの新聞が我が国の一般紙の先導になったと言われている。

明治八（一八七五）年、黙雷の生涯の目標である仏教界の風教刷新を図るための拠点となる「白蓮社」を創設し、毎週講話会を開催。

これは浄土真宗に限ったことではなく仏教界全般にわたっての大きな業績となった。

明治二〇（一八八七）年、八千代夫人と共同して婦女子の教育と地位向上のための「女子文芸舎」を設立、これが後の「千代田女学院」（東京）となった。

前後して当時社会問題となっていた足尾鉾山の鉾毒惨状を知るために現地に度々足を運び、その救済を世間に訴え続け、政府を動かした。

更に、日本赤十字社の前身「博愛社」の時代から、その事業推進に大きく関わっていた。ちなみに赤十字社総裁小松彰仁殿下崩御の際の通夜の席で、参列皇族に対し代表して、弔意法話を奉じたことは有名である。

また、東京盲人教育会を設立し、我が国最初の盲人のための福祉事業を立ち上げた。

このように黙雷は、我が国の社会福祉事業の先駆者の一人と言える。その黙雷が慈善事業に対する心構えを懇々と説いている。

「慈善は人間第一の美德なれど、人間美德は必ずしもこの慈善のみにあらず。人の勵はげむべきこと多事にして朝賤の多を傾けて尽くすべき非らざれば假令慈善の任せ相当の善を行うべきなり。偽善の慈善に奔走尽力するも名譽競争風に傾かず他の百行を為すに妨げなきよう分に応じ相当の善を行うべきなり」と偽善の慈悲を強く戒めている。俗世徘徊の小僕にとつては、なんとも耳の痛い訓話である。

【とみなが・かずのぶ／山口市】

お休みどころ通信 ⑦ ダイエットについて

精神科医 興野康也

僕はダイエットにはもともと関心がなく、つまらないと思っていました。ところが僕自身がダイエットをする必要性が生じました。コレステロールや中性脂肪の数値が高いので、医師から減量を指示されたのです。

ダイエットと聞くと思い出すのが、『ダイエットは人生の哲学』（著・リ



チャード・ワトソン 訳）が著者から寄贈された本。ダイエットの技術書ではない。

『ダイエットは人生の哲学』故・上島聖好さんが訳者から寄贈された本。ダイエットの技術書ではない。

チャード・ワトソン、訳・横山貞子、昌文社、2000年）です。これはダイエットに取り組んだ哲学者の本なのですが、名著であり、いままでにも何度か読み直してきています。再度読んでみましたが、やはり優れた本だという思いになりました。ただダイエットの具体的な技法を学べることも

- ① 特定の食べ物を食べ続けたりするダイエットでは持続性がない。もとの食べ方に戻ったら、すぐに体重が戻ってしまう。
 - ② 実のあるダイエットをするためには、生き方の全体を変化させないといけない。いままでと違った行動や考え方をすることで、結果的に味の好みや食に対する考え方も変化するのはずる。
 - ③ 真剣にダイエットに取り組むことは人生を自己管理することにつながる。ダイエットを通して人は自己を鍛えることができる。
- 結局ダイエットは人生の整理や掃除につながるのではないのでしょうか。不必要なことに手を出し過ぎず大事なことに集中するというのがその教えなのかもしれません。

【おきの・やすなり／人吉市】

倉敷便り

30

絵と文／原田 正史

吉備の国

桃太郎のきび団子で広く知られている吉備、すなわち吉備の国は、備前・備中・備後の三国から構成されています。その後、和銅六年（713）に、備前の一部が分国されて美作国が作られました。現在岡山県となっているのは、美作・備前・備中の三国です。西側に位置する備後は、そのまた西側にある安芸国との関係が深く、現在では安芸国と共に広島県となっているのです。

この吉備の国が文献に出てくるのは『古事記』と『日本書紀』の国生み

の神話のところからです。イザナギ、イザナミの神がオノゴロ島で国生みを始め、つぎつぎに日本列島を生んでいきますが、その中で淡路、伊予二名島（四国）、筑紫（九州）、豊秋津島（本州）、そして吉備児島、小豆島と続いています。いずれも瀬戸内海に面した島々であり、日本国成立の場所として注目されるところです。

神話時代の後『古事記』『日本書紀』には、神武天皇東征の話が登場します。カムヤマトイワレヒコ、すなわち後の神武天皇は、宮崎県の日向国から兄の五瀬命と船軍を率いて出発しました。その中には戦闘集団の一つである久米部の一族がいました。久米部の

名前を聞くと思い浮かぶのが現在球磨郡多良木町の一部になっている旧久米村のことです。神武天皇の東征に上球磨の若者たちが応じたことは十分に考えられることであり、神話だからといって全部が作り話だとは言えないように思われます。

海路を進んだ神武天皇は、筑紫国の宇佐・岡水門から安芸国の埃宮を経て、吉備国の高島宮に至り、『古事記』では八年、『日本書紀』では三年間滞在し、そこで戦の用意をしたときです。高島宮については昔ながら、岡山市内を貫通する旭川が児島湾に流れ込むあたりに浮かぶ高島ではないかと言われてきました。この島は東西約二百m、南北六百mの小島ですが、島内には高さ約三・五mの磐座があり、その周囲から土器や勾玉、鏡・刀・鎌などが出土しています。

岡山県の南部・北部とも近年、弥生時代から古墳時代の大きな遺跡が発掘され、それらの規模から推定しても吉備に支配者がいたことは疑う余地がありません。しかしその人物の名は不明です。

『古事記』『日本書紀』ともに人名が現れるのは、第七代孝靈天皇からです。『古事記』での孝靈天皇は、妃のオホセマトクニアレヒメとの間に、大吉備津日子命が生まれ、吉備上道臣の祖となり、別の妃のハエイロドとの間に若日子建吉備津日子命が生まれ、吉備下道の祖と笠臣の祖となったのです。

二人は大和から吉備へ、西征に向

かうことになり、播磨の氷の河（加古川？）の前で土器を据えつけて神を祀り、道口から吉備に入っています。なお道口とは主要道の国境の入り口を意味するものと思われまます。なお関連した記事が『日本書紀』にもあります。

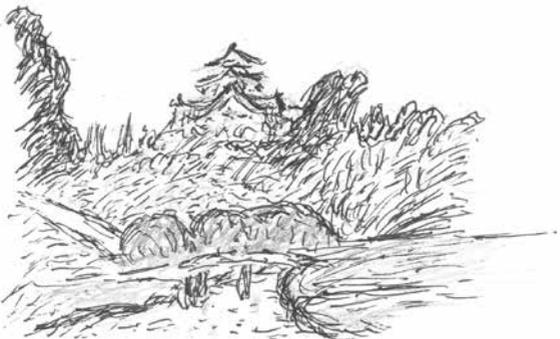
それは、崇神天皇の十年九月に、大彦命を北陸に、武渟川別を東海に、吉備津彦を西海に、丹波道主を丹波に派遣して、抵抗する者があれば兵を

以て討てと命じ、おのおのを將軍に任じました。いわゆる四道將軍の派遣であり、四人は翌月出動し、十一年四月にはそれぞれの敵を平定しています。この時期には大和から四方の国に、軍隊が出動出来るほどの道が作られていたことになりました。

この中で最も重要な道は、九州に至る山陽道であり、一番早く作られたと思われます。

吉備を訪れた歴史上の大人物は何と言っても日本武尊でしょう。『日本書紀』には景行天皇の二十七年、吉備に来たりて穴海を渡り、そこにいた悪ぶる神を討伐して、難波に帰とされています。また応神・仁徳天皇も吉備に来訪しています。吉備の国は古く、ゆかしき国なのです。

【はらだ・まさふみ／日本地質学会会員、倉敷市】



倉敷城

年念し
450 誕生
下ろし
書き
生記書

小説・相良清兵衛

18

山口啓二

翌元和六（一六二〇）年六月二十日、徳川幕府初めての人質として送っていた十八代義陽公の室で長毎公ながつねの母君である了玄院殿が、八十歳で江戸赤坂の桜田屋敷で亡くなった。この頃にしては大往生であった。この時、長毎公と清兵衛は参勤交代で江戸に居り、立派に弔いを済ませてしばらく後、屋敷内に大きな宝篋印塔ほうきょういんとうを建てて墓とした。翌年春、帰国のため母上の遺骨を携えて長毎公がお国入りをした。相良領民はその死を悼み、喪に服し、願成寺にも墓を建て、丁寧ていねいに供養が行われた。

その翌年の春、長毎公参勤の折、長毎夫人『いく』殿が代わりの人質となつて次男莊次郎長秀らと江戸へ向かった。その時いく殿は秋月家より輿入れのときに持参されていた『マリア観音像』を持つて出立されたが、御禁制の品が幕府に見つかればお家断絶は必至と清兵衛らに諭され、代わりに清正から貰っていた例の『肥後の特産物』を持たせた。すると頬がポツと明るい色になり恥ずかし

【前回までのあらすじ】島津義久より阿蘇氏攻めを命じられた相良義陽は、響野原に本陣を敷いたが相良勢は壊滅。義陽は宗運の家臣に斬り殺され、以後島津の支配となっていく。

そうになを向かれた。少しは気が安らいだのであろう。自身も兄上の元種公と同じ道を行く事になりかねないと、マリア像のほうは渋々八代のお寺に預けられた。彼女は信じるものまでも奪い取るのかと不満であったが、もしもこれがもて改易ともなればお家の一大事、そうせざるを得ない時代となっていた。

清兵衛はこの後、焼失して無住となっていた無量寿院を船場に再興、諏訪大明神や若宮社、北嶽神社の造営など、得意の『偽装工作』は着々と整えられた。

月日が過ぎ年号も寛永と変わった。この数年、安堵する日々が続いた。ところが寛永二（一六二五）年は梅雨になつてもいつこつに雨が降らない。未曾有の大飢饉であつ

た。そこで清兵衛は川辺村の灌漑かんがいに乗り出すことにした。

川辺川の中央あたりに位置するこの地は畑が多く、低くて広い土地の割りに水の便が良くなかった。そこで村の一番上に堤防を築かせ、そこから取水し村の全ての土地に水路を張り巡らせるという一大事業となった。田んぼには水を張らなければならない。そのため井手と畦を造るのに多くの農民が領内から集められ、その作業に応分の賃金を与えたので、農民も良く働き、工事は順調に進み翌寛永三年には完成した。この新田開発により増米となり、

川辺の領民はことのほか喜んだ。

「なくんもかんも、せいびやー
どんのお陰はい」

この灌漑事業はそのうち下流の深水、柳瀬にも広がり、その後三十年ほど行われた。

二年後の寛永五（一六二八）年、清兵衛の孫喜平次頼章に長毎公の次女『お万』姫が輿入れをする運びとなった。これは七年前

江戸に人質として行かれる時に、いく殿が決めた事でもあった。長毎公には長女『お鶴』姫が居たが、家臣村上左近との婚約を済ませた矢先に敢えなく病死した。左近は名和家の血筋で、名和家お取り潰しのあと相良家を頼った一族の一人であり、新地三百石を与えられた、敬けんなキリスト教信者であった。それで長女との縁談となったのだが。

お万姫との縁で、清兵衛にとつてはこれでまた相良家との深い絆が出来る事となった。勿論最初長毎公は猛反対したが、いく殿は受け入れなかった。江戸参勤のたびに何度もそう言う奥方に押し切られる形での婚姻である。清兵衛一族は主君相良家となお一層深い縁が出来た。

この年、老神神社の造営が行われた。青井神社の建造に当たった京の宮大工がまた呼ばれた。社は翌寛永六（一六二九）年に完成したが、その年は春から不幸が立て続けに起こった。二月に剣の師で人生の師でもある『丸目入道鉄斎』が、その四月には清兵衛の母『みね』が、ともに九十歳で世を去った。人生五十年といわれたこの時代、二人ともすこぶる長生きであった。七月には島津家に長く仕えていた十八代義陽公の末弟相良長泰殿がこ

■主な登場人物

相良清兵衛（犬童頼兄）＝相良家 家老
相良義陽＝第 18 代当主
相良長毎＝第 20 代当主

れも長命の八十六歳で、さらに秋には島津佐土原家から嫁いでいた嫡男内蔵助の妻で孫の喜平次の母『とき』が四十七歳で亡くなった。ときは嫁がれた頃から南国の出とは思えぬほど色白で可愛く、その顔立ちゆえかかなり若く見られていた。

寛永七年（二六三〇）正月が明け、寒さが一段と厳しくなった朝、清兵衛は御館で殿と会談していた。

「殿、今朝も霧が深かったですのう。寒さが一段と辛うなつてござる。霜が降りたうえに霧がかかっつておりますゆえなかなか暖くうなりませぬ。歳をとつたからか事のほかこたえまする」

「また寒い朝が訪れたよのう。日が射す時刻になれば何とも心地よいのじゃが。して話とは」

清兵衛は市房神社の造り替えを進言した。清兵衛六十二歳、長毎公は五十五歳になつていた。

が、当時の平均寿命は三十五歳にも満たつていなかったので二人ともかなり長命のほうである。

「は、されば市房神社も前に建て替えられてからすでに百二十年も経ちます。山の中腹とはいえあの辺りは風

当たりが特に強く、痛みが酷く出ております。それにもう少し荘厳な社殿にしたら如何かと存じまするが」

「そうよのう。聞くところでは当家十三代長毎公の折に普請されたのだそうじゃが、余もその御名を引き継いで『長毎』としたのじゃ。よし、そうするが良からう。そうじゃ丁度良い機会じゃ、その際には兄上の御世継ぎの一件で焼き打ちされた普門寺も建て替える事としようぞ」

「御意。拙者がまだ若い頃、殿の兄上である先君忠房公がご当主の折に、普門寺では化け猫騒動が起きてござつた。そのころ殿は島津の人質として薩摩の出水におわされてしまったのう。今や遠き昔にござりまする」

「おぼろげに覚えておるが、不吉な事がたびたび起きておつたそうじゃとか。我が姉上もその時に猫の祟りとかで先君であつた兄上もさらにその翌年にお亡くなりになられておる。かかわつた者共も不審な死に方をしたそうじゃが。すべからず供養をしておかねばいかぬよのう。では早速そのように差配致すがよからうて」

実は十八代義陽公にはくしくも同じ日に生まれた正室の子で義弟・大膳助頼貞という人物がいた。この頼貞は子供のころから気性が荒く、十七代である父晴広公は義

陽と弟・頼貞との確執を予感し、「義陽の代になれば頼貞を即刻出家させよ」との遺言を残していた。結果十三歳で義陽が家督を継いだので、その翌年に頼貞は出家させられ、蓬萊山永国寺の弟子となつた。しかし彼は元來武勇を好み、二十歳の頃には僧を棄て還俗し転々、領内で騒動を起こしたり、城下へ向けて鉄砲を放つたりするので領民との折り合いも悪く、又義陽公とも不仲であつた。

その後遂には島津にとり込み、薩摩領の栗野や飯野に移り住んでいた。この頼貞が相良家領主を名乗つたら球磨は混乱の世になるのは明らかだったのである。

四十年ほど前の天正九（一五八一）年、十二月二日の甲斐宗運と相良義陽の戦いは島津義久と伊集院忠棟にもいち早く知らされていたが、響野原での相良義陽の討ち死にはその日の夜遅くに伝えられ、二人はさっそく次の手を思案し始めていた。

「御屋形様、相良義陽が宗運に負けるとは思いもしませなんだが、まさかこう巧く事が進むとは想いもせなんだですなあ。誠にめでたき事にござりまする」

「まいことにもつてうまきはまりよつたな。これは島津にとつては目出度いといふべきであらうが、相良義陽には余

も喪に服さねばならぬて。このうえは八代の地を取りあげて阿蘇攻め、さらには筑紫、豊後の地を我が物にしたのじゃが忠棟、此度も何かいい知恵は出ぬか」

「そつてございますなあ。やはり相良は世継ぎには薩摩に人質となつておる嫡男亀千代君を推しましようぞ。さすれば名案が。八代を相良から奪い取るというより、相良が自ら譲り渡すとしたほうが賢明かと思われまするが」

「ほう、これ策士よ、また何かよい案が浮かんだか」

「流石は御屋形様ご明察に。義陽の実の弟、大膳助頼貞をうまく使つてはいかがかと」

「なんと、あの頼貞をと。してどうする積りじゃ」

夜の明けきらぬ館でたつた二人で何やら大いなるたくらみを練つていた。

「は、相良の次の世継ぎとして頼貞を送り込みます。ただ、相良が八代を渡せば頼貞を引き揚げさせ、亀千代を世継ぎにすると。なあに、聞かぬ折にはそのまま相良ごとたき潰せば済むことにて」

「そつていうことか忠棟。さすがお主は抜け目が無いのう」

一方相良の館ではまだ深い霧で陽も射さぬうち、亀千

Kabun Haiku ⑥

黄士洲

● 父親槌打の房門
晨寢

〔永田満徳評論〕

晨寢不起，於是父親前來槌打房門。此情景除了表達親子間溫馨的互動之外，也描寫春天早晨容易睡過頭的氛圍。

黄士洲

● 父の連打するドア
朝寢

〔永田満徳評〕

いつまでも朝起きしないので、父が必死にドアを叩いて起こしている情景。親子の微笑ましい絆を描くとともに、つい寝過ぎてしまう春の朝の雰囲気うまく詠んでいる。

慢鵝

● 産房外の新し爸爸
春天的搖籃

〔永田満徳評論〕

此首俳句描寫產房內剛出生的嬰孩。產房外隔著窗口，年輕的父親以慈愛的眼神注視著搖籃裡熟睡的嬰孩。

慢鵝

● 産室の外の若いお父さん
春の揺籠

〔永田満徳評〕

生まれて間もない「産室」の赤ちゃんであろう。「揺籠」ですやすやと眠っている赤ちゃんを、それを窓越しに見守っている若いお父さんの慈愛に満ちた眼差しがよく描かれている。

莊源鎮

● 雲霄飛車上尖叫的孩子
蒲公英

〔永田満徳評論〕

郷下の兒童樂園裡蒲公英綻放。轟隆轟隆的雲霄飛車、大聲吶喊的孩子和緩慢搖晃的蒲公英形成強烈的對比，刻劃著春日的一景。

莊源鎮

● ジェットコースターで叫ぶ子
たんぼぼ

〔永田満徳評〕

たんぼぼの咲いている、田舎の遊園地であろうか。「ジェットコースター」の轟音とともに、絶叫する子の声と、ゆったりと揺れる「たんぼぼ」との対比が春の一場面を醸し出している。

〔ながた・みつり／俳人協会会員、熊本市〕

我們提倡使用「一個切」和「兩項對照組合」的二行俳句書寫

世界に二行書きによる〈切れ〉と〈取り合わせ〉を取り入れた Haiku を提案する

代君を世継ぎとするために深水宗芳と犬童頼安が奥方様やお内儀様と今後の事を打ち合わせていた。奥方も内儀も、殿亡きあとはこの二人に頼るほかはなかったのであった。奥方、内儀の二人は義陽公の冥福を祈るために髪を下ろすこととした。島津の人質となっている亀千代君の質の代わりに二男の長寿丸と三男の藤千代いずれにするかは井ノ口八幡宮に参詣し、籤によって決めることで話はまとまった。

亀千代君お生まれの際は甚だ難産であった。ようやく無事にご出産なされた折、筆頭家老深水宗芳はその時、『露零ちて その葉は軽き小松原』と句を読んだことを想い出した。

その幼子も家督を継ぐことになる頃は、なかなかの美少年になっていたのだ。

宗芳と頼安は亀千代君を四郎太郎と改め、家督継承を球磨一円にふれるよう指示した。球磨ではなんの異論も無く事は運んで行った。このことはすぐに島津義久にも伝えられ承諾も得、亀千代改め四郎太郎君が世継ぎとなることはほぼ間違いないかった。数え歳で十歳になるところであった。代わりの人質と決まった長寿丸君は名を四郎次

郎と改めた。

ところが一番恐れていたことが起こった。暮れの二十一日、相良義陽の異母弟・大膳助頼貞が栗野で薩摩の連中を急ごしらえの兵として集め、相良に入国の準備を進めていることが物見の者の知らせで判ったのだった。まさかとは思われたが最悪の事態となったのである。頼貞はその翌二十二日には加久藤峠を越え、大畑を通って夕刻には七地の常秀寺に到着した。人吉の土の中には大畑の先で頼貞を迎え、この軍に加わるものも数多く出始めた。髪を落として僧となっていた犬童頼安は名を『休矣』と改め、多良木の永徳寺で義陽公の二十一日法要の弔いをしてしたが、これを聞いて急いで城中に参じ、宗芳、その息子の撰津介や休矣の子軍七はじめ樅木備後、稲留助左衛門、菱刈美濃、黒肥地仙右衛門、久保田下野ら、相良家重鎮たちと城のあちこちに篝火を焚いて翌朝まで警護したので、すぐ傍の七地まで来ていた頼貞もさすがにこの夜の入城は控えた。

今宵も深夜からまた霧が城内を覆い始めていた。

〔やまぐち・けいじ／人吉市〕
(つづく)

目郎 (モクロウ)

— 錦町木上 —

錦町木上字目郎は古い地名である。と言っても地名の多くは古いので



あるから、正確に言えば「古い史料にでる地名」としななければならない。

『熊本県史料』「中世篇第三」所収の「平川文書」（多良木町岩河内平河弘氏所蔵）の「一、良峯師高所領讓状案」に肥後国求麻郡永吉庄之内として「目良生之村田地四十町七反（三百三十石六十貫）」が出ています。

この目良生之村の名を残しているのが目郎であろうというのが定説である。文書の紀年は建久二年（一九二）五月三日とあるから、目郎は相良氏の球磨入国前のムラ名ということになる。

同文書の信頼性については問題も投げかけられているが、目良生と発音・表記する地名が鎌倉時代前から

界を指すのであろう。

目郎（目良生）の異字地名としては宮崎県児湯郡西米良（ニシメラ）村がある。伝説としては「大山祇命の娘髪長姫がこの山地に住み、米を作ったら良くできたので、米良（よねよし）と喜んだのがメラ地名の起り」と語られる。伝承はともかくとして、米良山地は肥後・日向の国境地であり、錦町の目郎（目良生）と同意地名であることは疑えない。

御用ノ瀧 (ゴヨウノタキ)

— 球磨村大瀬 —

球磨村大瀬字御用ノ瀧は小字の名称であつて特定の瀧を指す呼び名ではない。（本誌37号63頁）の「米ノ山」の項で触れたが、大字神瀬との境界

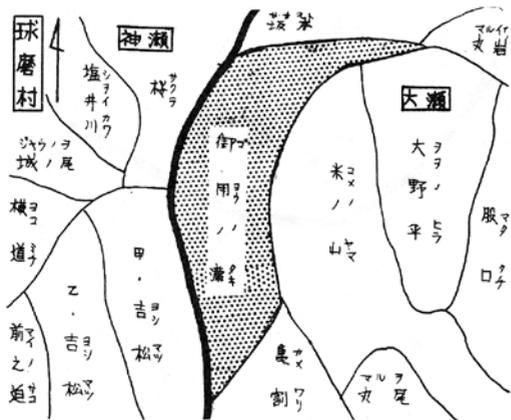
【おことわり】本連載は平成6年から9年にかけて執筆されたものの復刻版で、合併前の町村名をそのまま使用しています。

球磨にあつたことは事実であらうし、目良生が目郎に転化したことも間違いないあるまい。このシリーズは地名の由来を探るのがねらいであるので、平河氏との関連といった歴史的な事柄は郷土史研究に譲つて、目郎という地名の意味を考えたい。

郎という漢字の音は旧仮名づかいではラウと書かれる。また生をフト訓むことについて『大言海』は「生（お）フの約略。音便してウと云う」と説明している。このような漢字の音訓や音韻変化を考慮すれば、目良生の「目」をモクと音読みすることによつて、メラフがモクロウ（目郎）に転化した経緯が理解できる。

山地に位置するところから、境界表の地名と仮定して可否を検討してみる。

御用は天子の用い給うことの意味であつたのが公用、公務の敬語となり、御用聞きという庶民語も生まれる一方では、御用役人、御用学者、御用記者、御用商人などといった手先



非難の感情をこめた熟語にも発展した。何はともあれ古代から御用がまかり通るお国柄ではあるが、瀧にまで御用の名があることは知らなかった。

ところが、ゴヨウノタキを数回繰り返しているうちに、ゴロウノタキになってしまった。音が似ていることと、五老ケ瀧の連想が作用したのでろう。御用ノ瀧は知る人はまれであるが、五老ケ瀧は矢部四十八瀧の随一として知られる名瀧であり、各種の資料、文献もある。

上益城郡矢部町の五老ケ瀧は五老ケ瀧川にかかり高さ約五十呎。この川は轟川とも呼ばれ、旧轟村、桐原村、浜町、浜村などの境界を流れる。轟は瀧の轟音、桐は限り、浜は端間（はしっこ）の意であろう。五老ケ瀧については『日本歴史地名大

系44・熊本県の地名』（平凡社）は次のように記す（要旨）。

「五老瀧・五郎ケ瀧とも書き、瀧名の由来は浜の館に下向した勅使鳥丸大納言光康が「御覧じた」ことによるとも伝え、五郎という武士が瀧に落ちた、五人の仙人がこの山中を逍遙していたことによる、ともいわれる」

言葉遊びに過ぎない伝承であるが、五老を五郎と書くことに手がかりがありそうだ。古代の怨霊神（おんりょうしん）の怨に御が宛てられ、ゴリョウシンと読まれ、リョウは領や両、良（郎）などに変わって御領、五両、五郎地名として各地に残っている。

怨霊神の神威は崇であることから天神地祇などの神々と同じように境界守護神として祀られたのである。境の木や石をいじると崇られる

と恐れ、さわらぬ神に祟りなしと敬遠される神は境界守護の怨霊神かもしれない。

五老ケ瀧の名称由来は境界守護の怨霊神が御霊神↓五郎神↓五老神に変わり、五老神の神域にあった瀧が五老ケ瀧、そこに流れる川が轟川とか五老ケ瀧川と呼ばれるようになったのではなからうか。

球磨村の御用ケ瀧も御霊ケ瀧の転化と考えられる。現地を確かめていないので、瀧の有無はわからない。地名用語では瀧・岳・竹は通用するので、境山に祀られた神にちなんで御霊ケ岳と呼ばれたのが御用ノ瀧に変わったことも考えられる。

【うえむら・しげじ／宇土市生まれ、元熊本日日新聞社記者】

何でも引き受け株式会社

武井京子

今年の春、人吉市の西瀬小学校では文化祭が開催された。例年秋に実施され、餅つきと重なってじっくり見学できなかったが、今年は一年生から六年生まで通して見ることが出来た。

子どもたちが一年間の成長ぶりや、こんな事が出来るようになりましたと学習成果を発表するので、保護者の皆さんは感激されたことだろう。学年ごとに工夫をこらしたプログラムであったが、特に印象深かったのは三年生の創作劇「何でも引き受け株式会社」だった。

社員五名の会社で、依頼人が「面倒くさい、誰か勉強してくれないかな」と愚痴ると、「何でもして差し上げますよ。どうぞ、どうぞ契約書にサインして下さい。」と現れる。依頼者は、ああ楽だ楽だと単純に喜んでいる。

次々に掃除が面倒だ、家事労働が面倒だとエスカレート

していくが、途中でハタと気付いた。「これで良いのか、自分は何もせず、人に頼んで」と考えはじめ、反省するという内容であった。

これは子どもの問題ではなく、日本中の大人の問題を提起したものである。面倒だと果物の皮むきをしたくないので、イチゴやトマトが売れるとか。買い物で荷物を持つのが面倒だと宅配にしたり、料理の献立の食材を宅配に頼んだり、今の世の中では何でも引き受け株式会社が生かされている。余りに自分でしなくなると、恐ろしい認知症が近づいてくるのではないかと心配になる。

昔から人を使うより我が身を使えと言われているが、「面倒くさい」という言葉を使わないようにしたいと思う。一人が楽すると他の人が苦勞する。金銭という報酬はあるけれども、この三年生が演じた「何でも引き受け株式会社」は、子どもより保護者に訴えたものが大きかったと思う。どの学年も大きな声で発表していて、とても頼もしく、元気をいただいで帰った。

【たけい・きょうこ／人吉市】

稲留三郎の世界 ⑬

—年中行事五／六月の巻—

前田一洋



■五月五日の節句

端午の節句 端は初めなり 午は古の五の字通りに用ゆ 故に端午は五月初めの五日。粽(ちまき) 屈原(中国戦国時代の詩人・政治家―筆者註)は端午の日に死す。楚人みな此の日に家ごと竹筒に米を入れて投げて水中に祭る。これより始まると言う。

解説

「ちまき」の由来について、少し

刈り取ったら素早く取り込むようにしようや。

○

もう明日が五月の中じやるでー朝代掻き、馬二、三疋(匹) 雇え、まんが(馬鍬) 取り鼻取りや、うちの女(かた)こか。片入(かた)の人、だれそれ雇おい。植え手は朝飯ちいしもうて、男は溜りたんこ(肥溜) に早うからこしらえてえーた肥を入れて、踏んつけて、いなわせてやるでー、それー田の水を入れて、その中やー苗を漬けて、ざぶざぶと二、三度振って、左の手の腹にすえて、しぼって舟(田植え時の苗配り用の板)に入れて渡せば、植え手は取って植えはじむる。その時、株と株の間は一尺、垣は八寸ぐらいがよか。縄を引いて、まっすぐう植ゆれば二割増す。深植えはい

ばかり蛇足的な補足。楚の内政外交に、多大の功績を残した屈原であつたが、後に反対勢力のために斥けられ国家も滅んでしまった。悲しみの余り、屈原は川に身を投じて卒つた。

その日が端午(五月五日)であつたため、彼の徳を忍んで楚の人たちが竹筒に入れた米を川に流して屈原の供養にしたのが始まり。この習俗が日本にも伝えられ五月節句の食べ物となつた。人吉あたりのは米の粉

けん、浅かがよか。一人や落水口い芝を伏せて塵溜めを立て苗を洗い流さんように仕置かんばならん。トビの子、小握飯を笹の上に置く。水口に供える、訳は知らん。

解説

「片入れ」は、かちやーりとか、もやいなどと呼ばれる労働力の交換。つまり、数軒がグループを作つて、お互いに仕事を手伝いあう仕組み。エンブリーの論文でも日本農村の良き伝統として高く評価されている。

旧人吉藩士の稲留三郎は、殖産にも至つて造詣が深く、こうした田植え二つを取り上げて、従来の作業や方法に大きな改良や工夫を加え、手広く指導や助言も行なつていた。

を捏ね、小豆餡を入れ、竹の皮で包んで蒸したのが一般的。薩摩に近いところでは「あく巻」が。

○

五月の節も、もう五、六日になつた。田麦もでけたばい、大麦もはだか麦も、ゆうでけたでー、はだかから刈ろうや。刈り口ア短う刈れ。それ仕舞うたらうば、じきにいのうて来やい。雨えくさらか(濡ら)せば、おゆるで(芽が出てしまふ)じきい入れておこや。

解説

いよいよ麦秋だ、麦刈りで忙しくなる。麦飯用の裸麦か先から刈り、その次に味噌醬油の原料にする大麦だ。麦の刈り口は堅くて危ないので、できるだけ短く刈るんだ。また雨に濡らしたら芽が出てしまうので、

○

「田植え仕舞うて皆そろそろ戻るでー罪風呂の下燃ゆるきやー」「もうちいたぎったばい」「たぎれば水でちいぬべろ、いつとたぎらきやーちやいけんでー早よ水持つて来え」「みんな上がりめす。こせこせしちやーおるな。見ろ古へコの汚さ、脇から○○つと出やて来やる、見ろ見ろ」と言うて笑う。

「おいおい内イ入りやるでー、火入れ、ちよか、茶わんども出せ」「あいあい」それから肴ア大魚(ウーイヲ・鯉)の刺身、鉢肴、大魚の骨竹の子、豆腐、切干大根、やつこ豆腐。「なれども皆さん飲うてくださんし」「まあ田植えのきなぶり祝いに、盃頂きもそつ」「上げもそつ」「ちよつと歌いもそつ」

解説

今年の田植えも無事終ったようだ。みんなツブロ（この頃のは石風呂である）に入って打ち上げ、つまりサナボリである。結構なご馳走も用意してある。飲めや歌えや踊れの、どんちゃん騒ぎの始まり始まり。

■六月堂 茶立て

文政の末、天保の初めの頃までは、在方（田舎）は濁酒を造り、その掛かり掛かりの者、打寄って酒を呑んで祭りいたが、その後は酒をやめ、いで（湯がき）餅、市中は麦饅頭うもし飯（蒸しご飯）、煮染め六七品を添ゆる。明治の初めより、追々それも減って三十年の頃より、蒸し

飯にゴマ塩となり、三十二年の頃より追々やめ方。

解説

「六月堂」の堂は、本来は「籠」のことであろう。つまり田植えも無事に終わったところで、農村の人々はお堂に籠もり神仏に豊年満作を祈ってきたのだ。これが現在の「夏祭り」であり、夜店までも出るように。

ついでのことながら、「濁酒を造り」とあって、「おろう、ドブロクは冬のもんじゃなかつたかじゃー」と思いがちだが、俳句でも「夏」の季語となつているので、庶民は夏冬ともに「濁れる酒」を楽しんだのであろう。

六月晦日 夏越 大祓

人皇四十代の天武天皇の時に始

まる。当郡青井社の夏越祭りは、至徳年中（1384～1387）、相良家七代の近江守前頼の御代にはじまる。

夏は火、秋は金なれば相克するゆえ、夏の名を越えて、相克の災これを祓うという意味なり。この日は日暮れより、老若男女お宮に参詣して、月の輪をくぐること三べんなり。

天保のころより明治七、八年まで、菓子は麦菓子、餡は鍋のへぐろセンベイのみ。明治七、八年より上菓子あり。西瓜は安政のころ作り始む。今は夏越に西瓜は二百荷あまり出す。上菓子作り初めは西町の麻屋儀一郎、これが元祖なり。

解説

人々の罪穢れを祓い清める神事

で、六月と十二月の晦日に行なわれてきた。その六月の神事が「なごし」で、おなじみの「茅の輪くぐり」は、現在も続いている。

今でも「おくんち」同様に、青井馬場には屋台店がずらりと並ぶが、その商品は至って素朴なものであったようだ。ただし江戸時代末期に普及してきた西瓜は子供から大人まで大人気であつたに違いない。一荷とは、サス（天秤棒）で担ぐ量のこと。ちなみに、その半分は「かたん」と言っていた。

昔から粟作りは六月土用、ユリの花三つ開く時、初伏と中伏の間を、ゆう考えて、見合せて作らば、先で虫が付けてならんで、折りと時と節と見合せて作ろうや、ち

おつた。また、肥こしらえ、種まぜ、切りかやしは七へん以上を法とするもの。踏み付け、引き平し、曲輪切り上げ、踏み固めておくがよかばい。それで昔、作人に物の植え時、蒔き時を教え給う大原大明神の御歌に、

時しらす折りを待たぬはあわれなり つとめても見よ 暮るる日やなき

この歌は、農業勸の御歌にて、勤めても見よに心を付けて見るべし。

解説

主食である米の不足を補ってきた雑穀の代表がアワとムギ。また焼畑地帯では、ヒエやトウキビなどが加わる。アワは畑の作物であり、生育も早い代わりに、地力の消耗も甚だしく、大量の肥やしが必要であつ

た。そのために懸命の地こしらえや堆肥作りを。

さらに雑草も作物に負けないほどに繁げるため、炎天下の「草むしり」は地獄同然。しかも空からは鳥が、地上ではノウサギやノネズミやイノシシなどが、人の油断を常にねらっている。それに対応しようやく収穫が。

藩政時代に、相良藩の「書き役」であつた稲留三郎は、参勤交代への参加でも全国的な視野を広げ、農業をはじめとする殖産の勝れた指導者でもあつた。チャンスを失うと収穫が激減する「粟作り」への配慮など、この文でも具体的にその作業行程が示されている。

【まえだ・かずひろ／人吉市】

今、明らかになる人吉城地下室遺構の真実！

— 書評 原田正史著 「驚愕の九州相良隠れキリシタン」 —

益田啓三

まずこの著書の表題は凄くインパクトがあり背表紙を見ただけでも衝撃的である。歴史好きの人ならば思わず手にとつて見たくなるのではないだろうか。

著者は教職にあられたが、そもそも地質学が専門で、人吉球磨地方の地質についての第一人者である。分らないことがあつたら取りあえず最初に原田先生に聞けという



のが常識である。この原田先生が「隠れキリシタン」にのめりこんでしまったのが人吉市文化財保護委員会

の天草での研修旅行であつたという。資料館などを訪れたのち買い求められたのが「かくれキリシタン 信仰の証」という本で、これを読まれた先生の研究心に火がついたようである。以来、いわゆるキリシタン燈籠の調査から墓碑調査へと移っていくのである。

著者はこの本を出版するにあたり15年間にわたり墓碑調査を丹念に行っている。人吉藩の領地であつた人吉球磨には寺社の周辺や廃寺となつた山中にはまだまだ多くの古い墓碑が残されており、未調査の墓碑も多く存在している。

この点人吉球磨はまだまだ金石文未開の地と言つてもいいだろう。もともと気味悪い山中に分け入つて古い墓碑を調べようとすると「もの好き」な人間はそういないのは当たり前である。だからこそ、そこには古文書には無い真実があるとして、原田先生は嬉々として隠れキリシタン墓碑の痕

跡を捜し求めて行かれたのである。ただその痕跡（先生の表現はキリシタン指標）が墓石に刻まれた蓮華模様（中心にある♡（ハート）や◇（ダイヤモンド）であり、墓石上部に刻まれた卍（マンジ）や「点」「心」「ウハキユウ」「タムム」といった上文字、さらには相良家菩提寺の願成寺に残されている石燈籠の形状からそうであるとしているなど、はたしてこれが本当にキリシタン墓碑や関連遺物と言えるのか）が多く関係者が首をひねるところである。

原田先生の考える相良隠れキリシタンとは、

- 1、寺院僧侶に主導される仏教融合の特異キリスト教
- 2、信仰は藩主を頂点とする武士や寺社等の支配階層と共に農民町民等の被支配階層にも浸透波及
- 3、創設統帥者英傑相良清兵衛の烈々たる反骨精神具体化
- 4、肥後人吉相良藩は面従腹背の開き直つた国内唯一の違法集団
- 5、「落ち行く先は九州相良」の藩領は、キリスト教黙認の隠れキリシタン桃源郷

- 6、日本最多二千百基超の圧倒的隠れキリシタン墓碑類現存

- 7、人吉城地下二箇所に洗礼池付石造秘密礼拝所出現（国宝級的存在）

と述べられている。それでは何故峻烈な禁教令に耐えられたのかについては、寺院僧侶の強力な法衣によって庇護隠蔽されたからであり、幕府政策を逆手に取つた相良清兵衛の恐るべき発想があつたとしている。

こういった墓碑は先生の調査ですでに1000基を超えており、これでいくと人吉藩には藩主をはじめ数多くの隠れキリシタンが存在したことになるのである。

原田先生と共に何度も調査に同行し一番近く接した私だが、この点について私は別の考えをしている。

人吉藩はキリシタンと共に一向宗（浄土真宗）も代々禁宗としていた全国的にも特異な地域で、江戸中期には山江村の伝助を隠れ門徒として処刑している。このような取締りの事実や、門徒による記録や遺物が数多く遺されている。これに対して天草のようにキリシタンが本当に存在したという物的証拠である十字架や墓石が、ひとつも発見することが出来ないのである。しかし「状況証拠はいくつもある」というのが私の主張である。紙面の都合でこ

前号【くまがわ学習塾②9の答え】

問1 八代市坂本町内にある肥薩線の駅を書け (例: 坂本駅)

- ① (段駅)
- ② (葉木駅)
- ③ (鎌瀬駅)
- ④ (瀬戸石駅)

問2 「畜」を使った熟語を書け (例: 家畜)

- ① (畜生)
- ② (畜産)
- ③ (畜積)
- ④ (家畜)
- ⑤ (鬼畜)

問3 九州内の観光列車の名前を書け (例: ななつ星)

- ① (指宿のたまて箱)
- ② (A列車で行こう)
- ③ (かわせみ やませみ)
- ④ (田園シンフォニー)
- ⑤ (SL人吉)

問4 熊本県内の14基のダムでダムカードが発行されている。

そのダムの名前を書け (例: 市房ダム)

- ① (船津ダム)
- ② (都呂々ダム)
- ③ (緑川ダム)
- ④ (油谷ダム)
- ⑤ (幸野ダム)

問5 球磨人吉出身の有名人の名前をあげよ (例: 川上哲治)

- ① (一井正典)
- ② (高木惣吉)
- ③ (上村占魚)
- ④ (犬童球溪)
- ⑤ (内村光良)
- ⑥ (小山勝清)
- ⑦ (那須良輔)
- ⑧ (北御門二郎)
- ⑨ (日野熊蔵)
- ⑩ (末次利光)

は省くが平成9年に人吉城内で偶然に発掘されたふたつの「地下室遺構」について、先生は隠れキリシタンの洗礼池付秘密礼拝所として述べられている。

この地下室遺構についての文献資料は全く残されておらず、明らかにこの地下室について隠そうとした意図が想像されるのである。人吉藩の歴史的人物である相良清兵衛に関わる寛永十七年七月七日(1640)に起きた「御下の乱」の時にこの地下室が埋戻され相良の歴史から消されたのは間違いのないことで、何故この地下室の存在を隠さなければならなかったのか? 島原の乱のすぐ後に起こった騒動だけにキリシタン秘密礼拝所の考察は否定できない。その頃、相良家内で起こったいろんな事柄を検証すると、この地下室遺構はキリシタン遺構と考えざるを得ないのである。特に昨年原田先生の娘さんによって分かったスペースにある「ミグヴェ」という施設は、人吉の地下遺構とそっくりでありこれを無視することは出来ないのである。これはユダヤ教で身を清める施設だそうで、これを東京大学大学院の元教授の先生が間違いないミグヴェとのお墨付きを与えたことは、これまでかたくなであった学芸員諸氏も認めざるを得ないであろう。

地下室の使用目的は原田説と東大教授の説では違うと思うがそれは相良清兵衛の時代、彼らにとつてユダヤ教もキリスト教も同じだったと考えていいだろう。

今後はどうやってこの施設の情報が伝わって来たかその経路が課題となってくるが、どのような形で伝わって来たとしても地下遺構は厳然として存在しているのである。今後この地下遺構をどう生かすかは我々の手を離れ人吉市にかかっているが、「風水祈りの浄化町:」とかいう根拠がなく訳の分からない陳腐なものと一緒にしてもらいたくないものである。これは長年にわたりこの謎の解明のために苦労してきた原田先生をはじめ市井の者たちの言葉である。

是までの20年間、確証となるひとつの十字架、ひとつのメダイ、ひとつのキリシタン墓碑、一行の古文書の発見を夢見て探してきた。しかし今回、原田先生が長年にわたって心血を注いでこられた相良隠れキリシタン説が別のところから花開こうとしている。日本中の何処にも無い驚愕の花である。

【ますだ・けいぞう／人吉市】

問1 人吉市の歴代市長名を書け (例:松岡隼人)

- ① ()
- ② ()
- ③ ()
- ④ ()
- ⑤ ()

問2 「直」を使った熟語を書け (例:正直)

- ① ()
- ② ()
- ③ ()
- ④ ()
- ⑤ ()

問3 次の文書は正しいか誤りか。正しいときには○を、誤っているときには

×をつけよ (例:参議院議員の任期は6年である。○)

- ① 参議院議員は内閣総理大臣になれない
- ② 内閣総理大臣は参議院を解散できない
- ③ 自民党の参議院比例区で当選した候補者は当選後に共産党の議員にく
ら替えてできない
- ④ 参議院議員は都道府県に最低1名は居る
- ⑤ 衆議院議員は「代議士」というが、参議院議員は「代議士」と呼ばない
- ⑥ 衆議院だけでは予算を可決し、法律を制定できない
- ⑦ 参議院選挙の供託金の金額は選挙区と比例区では異なる
- ⑧ 参議院議員と衆議院議員を兼任することはできない

問4 い草の産地を書け (例:熊本県)

- ① ()
- ② ()
- ③ ()
- ④ ()
- ⑤ ()

※答え合わせは次号でおこないます。前回の答え合わせは77頁で。

くまがわ春秋歌壇

いもご短歌会

果てしなく頽廢しつつ行く先は戦前回帰のファシズム国ぞ

シンゾウの天皇利用も極まれり「内奏」シーンをニュースに流す

柳原 三男

西方の紅取山の頂きに夕日が沈む盆地を染めて

竹の子はいつの間にやら天を突く孫の背丈の伸びるがごとく

坂本 ケイ

太き腹抱えて孫の里帰りおおひ孫よとそつと撫でたり

久々に夫つきくれしビール飲むなつかしき味口にじわりと

上田 廸子

黙々と畦を塗りしは若き父 光る泥土をかすめし燕

簡単なクマモン体操踊れるよ輪の真ん中に〇歳児らは

宮川しのぶ

安倍君とは同年なりと前置きし永田氏は語る護憲のつどい

安倍君よ憲法いじりは止めたまえ 日本壊しも沖縄いじめも

※元NHKプロデューサー永田浩三氏の発言より(護憲集会にて)

上田 精一

編集後記

6月1日に坂本町で開かれた「不知火海・球磨川流域圏学会」の研究発表会には約80名の参加があり、坂本町の魅力を十分知ることが出来た(4頁)。会が開かれた6月1日は球磨川アユ漁の解禁日でもあり釣り糸を垂れる人の姿もあった。つる詳子さんの論考「荒瀬ダム撤去で球磨川のアユは増加するか？」(6頁)と併せて一読いただきたい。
 ★46頁で紹介したように長く連載が続いている藤原宏さんの連載が一冊の本としてまとめられた。足かけ15年の連載で、収録項目は500に及ぶ。英語の読み物として興味深い内容であるので、ぜひお読みいただきたい。★本誌でもたびたび登場している「人吉城地下室遺構」が新たな展開を見せそう。益田啓三さんの「今、明らかに人吉城地下室遺構の真実！」(74頁)は、そのことを予感させる一文で、地元の人としては大いに期待したい。★いよいよ雨の季節が到来する。大きな災害が起きないことを願うばかりであるが、自分の身は自分で守るといふ鉄則を忘れないようにしたいものだ。(ま

〒868-0015
 熊本県人吉市下城本町1436-4の3号
 人吉中央出版社「くまがわ春秋」編集部
 info@hiyoshi.co.jp
 電話・ファックス 0966-23-3759

インフォメーション

- ▽6月20日(木)
 - ▽人吉観光案内人会総会(鍋屋本館)
 - ▽人吉方言例会「黒田晋也(テノール)・小林晴美(ソプラノ)・櫻本潤(ピアノ)おしゃべりコンサート」(人吉市カルチャーパレス)
 - ▽金子飛鳥(ヴァイオリン)&林正樹(ピアノ)デリシアジャパンツアー(ひとよし森のホール)
- ▽6月23日(日)
 - ▽第37回彩葉林ソフトボール大会(人吉市スポーツパレス)
 - ▽松濤館流空手道道友会練習試合(人吉市スポーツパレス)
 - ▽人吉市民体育祭「ソフトテニス」(村山公園テニスコート)
 - ▽人吉市テニス協会ミックスダブルステニス大会(田野コート)
 - ▽青井阿蘇神社国宝記念館建設チャリティー「人吉球磨歌謡フェスタ2019」(人吉市カルチャーパレス)
- ▽6月27日(木)
 - ▽人吉温泉観光協会通常総会(あゆの里)
- ▽6月30日(日)
 - ▽第47回球磨郡青年団協議会体育祭(あさぎり町免田総合グラウンド)
- ▽7月6日(土)
 - ▽八代市地域包括ケア推進住民講演会「もうすぐお盆」(人吉生会議)で話してみよう(「やつしるハーモニーホール」)

匠の技

◆納豆みそ (お徳用) 300円 (税抜)

◆納豆みそ 477円 (税抜)

御膳醤油

(だし入り万能しょうゆ)

◆玉子かけご飯
◆豆腐
◆お刺身に

300ml 650円 (税抜)

◆みそ煎餅 477円 (税抜)

人吉散策コース 九州特産 蔵めぐり

みそ・しょうゆ蔵

資会社 釜田醸造所
 会長 釜田元 嘉頭
 社長 釜田 眞

〒868-0001 熊本県人吉市鍛冶屋町16
 電話 (0966) 22-3164
 FAX (0966) 22-3165
 メール info@marukama.co.jp

たけだ眼科クリニック

院長 竹田 憲司

人吉市南泉田町39 ☎23-3096

めがね・コンタクトレンズの

アイウェア 榎

(たけだ眼科ビル内) ☎0966-23-3097

デイサービスセンター

ケアプラン作成所(任意)
 (居宅介護支援事業所)

いざみ

協力医療機関 たけだ眼科クリニック

人吉市南泉田町70番地の3 ☎0966-28-3307